日本大学薬学部校友会

桜薬会会報

49

Epimedium chlorandrum Stearn

挨　　拶

会長　山内　　盛

平成20年度薬学部校友会通常総会（6月28日、薬学部校舎）で会長職に再度ご推薦いただき、選任されましたことは身に余る光栄と感謝しております。

これまで勤めて参りました会長職2期6年に何が出来たかと、改めて考えております。本会会則には「会員相互の親睦をはかるとともに、専門知識及び地位の向上並びに母校の興隆発展に寄与することを目的とする。」とあり、その目的を達成するために、1. 会員の親睦に必要な事項、2. 日本大学が行う諸事業の後援、3. 会誌及び名簿の刊行、4. 講演・見学・研修会等の開催、5. 日本大学校友会との連携協力、6. その他、幹事会が必要と認めた事項を行うとあります。この目的を遂行する各種の事業を行い、会報に報告して参りましたので、ご理解いただいていると思って居ります。しかしこのことは本会執行部の、特に私の自己満足ではないかと反省している次第です。そのことは各種の事業・会合への参加者が少ないことからの想いです。

私は「友人は生涯の財産」と想って居ります。友人には老若男女・先輩後輩あり、ときには師であり、ときには兄弟・親戚でありで、自分の羅針盤となってくれるものと想っております。校友会の心は北京オリンピックでも言われましたが「朋（とも）有（あ）り遠方より来（きた）る、亦た楽しからずや。」であり、本会の目的にある「会員相互の親睦」に通じると思っています。

母校薬学部は創設56年になり、校友会正会員は53期11,002名になりました。しかし残念ながら1,441名の方が住所不明です。寂しく思っております。

本年は4年制教育の最後の年です。しかし新しい制度はすでに始まっております。人が生きている限り、医療は継続されます。医療職の一員である薬剤師の使命を考えるときその道程は限りなく、元気に真剣に歩を進めなければ使命を果たすことは出来ないと考えています。そのときに手を貸してくれる身近な人は同期生、先輩後輩ではないでしょうか。

卒業期選出幹事を中心に同期生の交流から人の輪を広げて下さい。各期が同期会を開催していただければ、それは校友会活動に強力なエネルギーを注入することになります。

母校日本大学の卒業生は明年3月で100万人になり、同年10月には創立120年を迎えます。本部校友会は今年度主事業に「校友会館の建設」を挙げております。これも校友の輪を「校友の和」に拡げることを目的にしています。校友会は会員のために何をすれば、会員に喜んでいただけるかだけを考えて会務を進めてゆきたいと考えております。

薬学部校友会が発展するためには執行部の結束も必要と考えております。今期は執行役員として副会長（委員長兼務）に渡邉和子（9期：総務）、小林郁夫（10期：財務）、岸田邦雄（14期：事業）、伊藤幸夫（15期：学内）、内倉和雄（学内14期：IT）、本橋重康（学内21期：事務局）に、各副委員長には杉森万千日児（21期：総務）、梅沢芳史（学内25期：IT）、安川　憲（18期：事業）、小池勝也（20期：財務）、立川真理子（20期：学内）、内山武人（学内33期：事務局）の各氏に就任を御願いし、学外選出幹事6名、学内選出幹事6名と私で執行部を編成いたしました。執行部の方々に協力いただき、校友各位がこれまで以上に交流の輪を広げて行けるよう努力いたしますので、校友各位の強力な後押しを御願い致します。

目　次

「挨拶」　会長　山内 盛……2
特集「手術室における薬剤師業務」
東京女子医科大学病院　薬剤部　小西寿子 …3
卒後教育講座の御案内……6
山本拓真氏　Outstanding Student Award……6
ユニット（研究室）だより ……7
桜の木の下で……14
ユニット同窓会……17
薬学部ニュース……18
平成21年度日本大学薬学部入学試験期日及び科目等……19
平成19年度　薬学部校友会研究奨励金研究報告 ……20
日本大学・日本大学校友会ニュース ……20
会合予告……21
会務報告……22
物故者名簿……25
薬学部校友会役員名簿 ……26
平成19年度決算報告・平成20年度予算案 ……27
会費納入報告……27

◆表紙・写真　撮影者：安川　憲
撮影場所：本学薬用植物園

手術室における薬剤師業務

東京女子医科大学病院　薬剤部　小　西　寿　子

はじめに

近年、手術室における麻薬・向精神薬などの盗難事件や医療事故、また最近では麻酔科医不足と言われている。麻酔領域の医療技術の進歩により麻酔時に使用する医薬品が多様化し、また、手術分野においても医療機器の著しい発展により、医師や看護師にもより一層の専門性が求められるようになった。このような状況の中でチーム医療として、薬剤師に、医薬品に関する適正管理や能動的情報提供が強く求められている。

手術室では麻薬、筋弛緩薬などの毒薬、向精神薬、習慣性医薬品を含む麻酔薬など薬理作用の強力な薬剤や依存性のある薬剤が多く使用され、リスクの高い医薬品が取り扱われており厳重な管理が要求される。さらに、医療従事者の薬物乱用や薬物依存が社会問題化し、保管に関しても厳正な対応をとらなければならなくなった。また経済面においては、手術部門はまだ出来高払い制であり使用薬剤のコスト管理も考慮する必要がある。

東京女子医科大学病院（以下、当院）においては、医薬品のより安全な管理と適正使用に向けて、2002年9月より中央手術部に、2003年12月より西病棟手術部に、それぞれ薬剤師1名が日勤時間帯に常駐となった。当院の中央手術部と西病棟手術部合わせて21ルームで運営され、年間約1,0000件の手術が行われており、循環器外科、消化器外科、脳神経外科、皮膚科、口腔外科、糖尿病に関する手術は西病棟手術部で、それ以外の診療科の手術は中央手術部で行っている。

今回は、当院手術室における医薬品管理の現状と工夫点、メリットなどについて紹介する。

図1

当院サテライトファーマシー（図1）は、手術室の清潔区域内に設置され、平日、原則として7時50分から16時10分（手術進行状況に応じ延長）まで常駐し、薬剤師不在時や土日・祝日は看護師主任またはリーダーが、マニュアルに基づき対応している。

サテライトファーマシーにおける医薬品管理（表1）

1）麻酔科医が使用する医薬品のセット化
2）麻薬・向精神薬・毒薬および麻酔薬などの手術後の使用量・残量・空容器の確認と管理
3）医薬品情報の提供
4）医薬品供給の迅速化
5）医薬品の適正管理
6）血液製剤の使用管理
7）使用薬レセプト請求のコスト管理

1）麻酔科医が使用する医薬品のセット化

薬剤師は麻酔時に使用する医薬品〔筋弛緩薬（ロクロニウム）を含む〕を疾患別に一つのトレイにセット化している（図2・表2）。

図2　基本セット

＜循環器系作用薬＞			＜局所麻酔薬＞		
劇	硫酸アトロピン　0.5mg	4A	劇	キシロカインポリアンプ®1%10mL	1A
劇	塩酸フェニレフリン1mg	2A	＜筋弛緩薬＞		
劇	塩酸エフェドリン　40mg	2A	毒	エスラックス®50mg	3V
劇	リドカイン静注用®2%100mg	1本	＜その他＞		
劇	ペルジピン®2mg	2A		ラシックス®20mg	1A
劇	オノアクト®50mg	1V	劇	ワゴスチグミン®0.5mg	6A
			劇	ロピオン®　50mg	1A
				生理食塩液20mL	2A
				生理食塩液100mL	1本

表2　基本セット

図3　医療品の払い出し

トレイは患者ごとに1セットとし、原則として薬剤師が直接麻酔科医に医薬品の確認を行い払い出しする（図3）。麻酔科医は1症例ごとに1トレイを受け取り、終了時には本人が返却を行い数量確認をしている。また常時使用することがない為にセットから除外された医薬品、特に施錠管理薬は伝票請求とし、麻酔科医はトレイを受け取るときに口頭で請求し薬剤師より医薬品を受け取る。この時薬剤師は控えに施錠管理薬の払い出し先と医薬品名、数量を記録し、麻酔科医用の伝票にも同様に記載する。

麻薬は手術前日に麻酔科医が麻薬注射せんでオーダーし、当日朝に当直薬剤師が手術室に供給後から手術室薬剤師が払い出す。トレイは毒薬である筋弛緩薬が含まれるため施錠可能な棚に、麻薬は麻薬金庫にそれぞれ保管し、薬剤師が鍵を携帯する。薬剤師が手術室を離れる場合や時間外、休日には、看護師主任またはリーダーが鍵を管理する。決められた看護師が携帯することで責任の所在を明らかにしている。

2）麻薬・向精神薬・毒薬および麻酔薬などの手術後の使用量・残量・空容器の確認と管理

手術終了後、麻酔科医はトレイを速やかに返却し、薬剤師と一緒に返却医薬品と使用量を医師が記載した使用量と比較し確認を行う。この時、麻薬・向精神薬・毒薬はもちろん、当院手術室では劇薬でも習慣性医薬品に指定されている麻酔薬は施錠管理しており、これら施錠管理薬の残液、空容器も回収し確認している（図4）。薬剤師は、麻酔

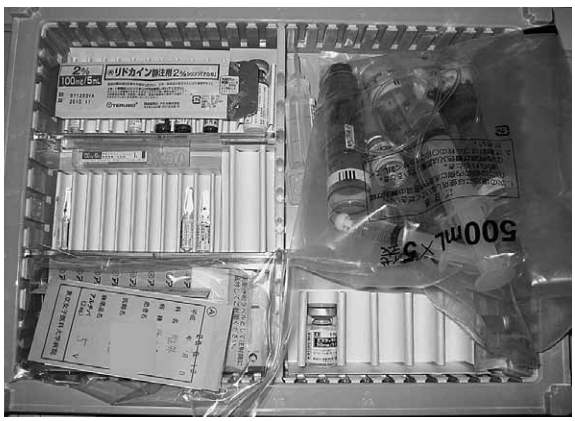


図4　返却トレイ

記録の内容と使用量記載伝票を確認し、不一致の場合は医師に連絡し確認後訂正を依頼する。残液量不足や空容器を紛失した場合は、医師は事故届書に理由と対応を記載して提出する。

薬剤師は、手術翌日（金曜日分は月曜日）に向精神薬・毒薬・麻酔薬を原則として患者ごとに専用ノートに記帳し、毎日在庫を管理している。残液、空容器は翌日までMDBOXの中に入れ施錠棚の中に保管し、在庫数が合い次第廃棄する。麻薬は麻薬金庫に保管し、翌朝薬剤部麻薬管理室へ返却する。

返却トレイ、空容器などを片付けるときはスタンダードプリコーションに基づいて行っている。トレイは消毒用アルコールで清拭し、定期的にウォッシャーディスインフェクター（熱水洗浄消毒機）で洗浄している。

3）医薬品情報の提供

医薬品の投与濃度・投与速度などの適正使用に関する情報を、直接医療スタッフに提供する。手術室において要求される情報提供は速やかな対応が求められる為、院内LANを用いた最新添付文書、医薬品集などを完備し、消毒薬、アレルギー発現情報（抗菌剤・ラテックス・造影剤）に関しても迅速に情報提供している。さらに新規購入薬や後発医薬品採用時・外観変更時には口頭・掲示・E-mailで医療スタッフに伝達している。

4）医薬品供給の迅速化

手術室では、必要な医薬品を直ちに使用できるという手術室の業務実態に即した品揃えと欠品を生じない管理が求められる。週1回開催されている手術調整会議に参加し、翌週手術予定の患者情報を外科医、麻酔科医より収集し、必要な医薬品を手術前に準備している。

薬剤部からは週2回のカート交換と週1回の定期発注により納品され、不足時は随時請求している。

5）医薬品の適正管理

薬剤師による医薬品の一元管理により、不良在庫をなくし、定数医薬品は半年ごとに見直しを行っている。また眼科用・小児用・周術期管理室用などの特殊セットを作成し、用途に合わせて使用できる体制を試みている。

保管温度、ロット番号、有効期限を確認するなどの品質管理を行い、消毒薬の使用期限の確認や同一バイアルからの頻回使用を制限し感染防止に努めている。

吸入麻酔薬の管理は、開封瓶の数を原則1本とし、瓶と外箱に通し番号をふり、厳重に管理している。空瓶の回収をノートに記帳・押印し、他の施錠管理薬と同様にMDBOXに廃棄保管している。

当院では、手術時の利便性やシリンジポンプで精密に点滴流量を調節できるようにプレミクスト製剤を使用している。また包装形状が類似している製剤や、2規格ある製剤は取り間違えのないように別々のところに保管するなどの工夫をしている。

6）血液製剤の使用管理

当院のアルブミン製剤は輸血・細胞プロセシング部が管

理しているが、手術室定数分は薬剤師が管理している。定数分から払い出しを行う場合は、医師は必ず専用申込書に製剤名・使用理由（①膠質浸透圧の改善 ②循環血漿量の是正③その他）・検査値TP値（手術中はAlb値が測定できない為）を記入し、薬剤師が使用理由とTP値を確認後、アルブミン製剤の濃度をチェックして供給している。不適正なオーダーは医師にその旨を伝え適正使用を求める。看護師にもマニュアルと血液製剤の使用指針を説明し協力を得ている。また、新鮮凍結血漿（FFP）の不適正使用の防止のため、凝固因子補充が不必要な場合は等張アルブミンへの代替を推奨し、FFP使用量のコントロールと副作用・合併症発生の低減を目指している。

7）使用薬レセプト請求のコスト管理

当院手術室においては自動麻酔記録（フクダ電子メタビジョン®）を使用してカルテを電子化している。医薬品請求伝票は医師が使用量、残量を直接記入し、伝票の施錠管理薬の欄を太枠で囲み、注意喚起と意識向上に努めている（図5）。薬剤師は、返却されたトレイと医薬品、医薬品請求伝票、麻酔記録を照合し、コストの取り漏れ、2重請求を確認し、麻酔記録と不一致の場合は麻酔科医へ連絡し訂正を求める。

図5　麻酔使用薬剤伝票

今後は、麻酔科医が電子カルテに入力した情報が直接医薬品請求伝票に反映され自動印刷化し、医事課への配信を行う前に薬剤師による管理を行う予定にしており、医師の医薬品請求漏れと2重請求が防止でき、医師の記録作業の軽減に繋がると思われる。

サテライトファーマシーにおける医薬品管理によるメリット

① 医薬品のセット化による払い出し、返却システムと医薬品の一元管理により、医療スタッフがそれぞれの業務に専念でき、業務の効率化に貢献している。

② 麻薬・向精神薬・毒薬・および習慣性医薬品などの手術後の使用量、残量、空容器の確認は、医薬品の安全かつ適正使用に繋がり、医療スタッフの医薬品取り扱い（紛失、廃棄を含む）に対する意識が向上した。施錠管理薬の取り扱い人数を制限でき、より責任をもった管理が可能となった。

③ 医薬品情報の迅速な提供により、医薬品の適正使用や誤投与の防止など、リスクマネジメントに貢献している。

④ 医薬品の適正在庫管理により回転率が上がり、不良在庫と欠品薬が減少した。

⑤ アルブミン製剤の適正使用推進により、適応や濃度などの不適正な使用が減少し、人工心肺技士の協力を得て、心臓血管外科手術におけるFFPの患者一人当たりの使用量が減少し、経済効果に繋がった。また麻酔科医も無輸血にむけてより一層取り組んでいる。

⑥ 麻酔科医と薬剤師が一同に介し医薬品使用量と伝票を確認することで、レセプト請求漏れと麻酔記録、請求伝票の不備が減少した。

まとめ

手術室サテライトファーマシーに薬剤師が常駐することの最大のメリットは医薬品の適正使用によるリスクマネジメントへの貢献である。

手術部は緊急を要する特殊な環境であり、多職種の医療スタッフとのチームプレイが最も重要な職場である。その一員として薬剤師は積極的にコミュニケーションを図り医薬品の専門家として管理し、情報提供することが大切であると考える。

参考文献

1）小西寿子, 久保田由美子, 池田みさ子　他：手術部サテライトファーマシーにおける薬品管理の現状―より安全な管理に向けて―, 手術医学25(3): 202-204, 2004

2） 小西寿子, 佐川賢一, 野村　実：手術部サテライトファーマシーの現況, 月刊薬事49(7): 989-995, 2007

3） 小西寿子, 佐川賢一, 野村　実：プレミクスト製剤と医薬品管理―薬剤師の視点から―, 医学と薬学57(2): 185-191, 2007

略歴

平成6年3月　日本大学薬学部　薬学科卒業
平成6年4月　東京女子医科大学病院　薬剤部　研修生
　　　10月　東京女子医科大学病院　薬剤部　入局
　　　　　　入院調剤室に配属
3年半調剤、その後医薬品供給管理室で、医薬品管理や注射剤混注心臓病棟専任薬剤師を経て
2002年9月に中央手術室サテライトファーマシーを開設し常駐
2003年12月より西病棟手術室サテライトファーマシーを開設し常駐
2006年より心研ICUと兼任、
2006年からICT感染対策実務委員をしている。
2007年4月　主任
2007年11月より、後輩とともに手術室、心研ICU、消化器・脳外ICU、脳外病棟、心臓病棟を担当している。

所属学会など　薬学会
　　　　　　　日本手術医学会
　　　　　　　日本化学療法学会
　　　　　　　東京都薬剤師会
　　　　　　　日本病院薬剤師会

現在、薬剤部のなかの臨床薬剤管理室に所属している。

卒後教育講座の御案内

◎第118回

日時：平成20年11月6日（木）18時より

演題：「医薬品情報を理解するための基礎知識」

演者：順天堂大学医学部附属浦安病院
薬剤科長　小清水　敏昌　先生

当番研究ユニット：生薬学、薬事管理学、英語、社会学

内容：医薬品に関する情報は多岐に渡っている。医療現場においては、有効性、安全性を始め品質や使用性まで幅広い情報が求められる。また、最近では遺伝子情報を基にした新薬も登場しており、従来の医薬品とは異なった薬理作用や副作用などを持っている。したがって、ゲノム技術によって開発された抗体医薬などの医薬品情報はきちんと整理し理解しておくことも必要となってきた。

もともと医薬品は開発から販売までには幾多のハードルが用意され、それらをクリアーしなければ次の段階には進めない。いわゆる、研究開発、前臨床試験、臨床試験、製造申請、製造販売後の調査、再審査や再評価などを経るために長い時間と経費が必要とされる。その理由はヒトに使用される化学物質であることから、薬事法などの他、多くの法律によって医薬品の有効性や安全性などが確保されるからである。こうした医薬品が臨床の現場で使用されるに当たり、添付文書、インタビューフォームを始め各種、多量の医薬品情報が提供されているのが現状である。

一方、わが国の医療機関における医薬品情報活動が始まったのは1963年のことである。当時はまだ少数の医療機関でのみ活動していなかったものの、以来45年間が経過し、現在では多くの医療機関で医薬品情報に関する活動が行われている。

医薬品情報活動は情報の収集、評価、保管、提供などの段階があり、それぞれにおいて工夫が必要である。これら一連の作業において知っておくべき重要な事柄などについて解説し、医薬品情報そのものやバックグランドなどを理解していただき、患者さんや医師などの医療従事者へ活用できることを期待したい。

◎第119回

日時：平成21年1月15日（木）18時より

演題：「慢性腎疾患と生活習慣病」

演者：新松戸中央総合病院
腎･透析センター長･腎臓内科部長　中村 司　先生

当番研究ユニット：薬理学、薬品分子化学、健康・スポーツ科学

◎第120回

日時：未定（平成21年3月）

演題：「薬剤師を取り巻く改革の動向」（仮題）
（最近の医療行政と薬剤師生涯研修）

演者：日本大学薬学部薬剤師教育センター
教授　日髙　慎二　先生

当番研究ユニット：微生物学、薬品分析学、ファーマシューティカル・コミュニケーション学

※第120回は会場未定

◎受講案内

会場：日本大学会館（千代田区九段下南4-8-24）

最寄り駅：市ヶ谷駅
JR中央・総武線下車　徒歩2分
東京メトロ　有楽町線・南北線、都営地下鉄新宿線下車　A2出口　徒歩0分

受講申込方法：当日会場受付にて申込（予約不要）

受付開始時間：17時30分より

参加資格：特になし（出身校等一切不問）

受講料等：1,000円

受講者には受講証と講義資料を差し上げます。日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師制度の受講シール（1単位）を交付いたします。

問い合わせ先 日本大学薬学部庶務課 Phone 047-465-2111

★おめでとうございます★

山本拓真氏　*Outstanding Student Award*

第52期（H19年卒業）の山本拓真氏（日本大学院薬学研究科薬剤学ユニット2年）が、第3回トランスポーター研究会年会において「パーキンソン病態モデルマウスにおけるニコチンの血液脳関門透過性」の演題で *Outstanding Student Award* に選考され、授賞式が6月8日に行われました。

心よりお祝い申し上げます。皆様の益々のご活躍を期待しております。

事務局からのお願い

学会等で多くの会員の方々がご活躍のことと存じます。しかし、実際にはなかなか皆様のご活躍を知ることが出来ません。今後なるべく本会誌でご紹介できるものはご紹介して行きたいと考えております。何か御座いましたら桜薬会までお知らせ下さい。

ユニット（研究室）だより

薬剤師教育センター

（6号館1階619）

日髙　慎二
（ひだか しんじ）

薬学部校友会（桜薬会）会員の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

本年（平成20年）4月1日から薬剤師教育センターを担当しています日髙慎二と申します。

理工学部薬学科を昭和59年(29期生)に卒業しました。在学中は薬剤学研究室に所属し、クリニカルファーマシーのパイオニアとして貢献されてこられた研究室教授の齋藤太郎先生から病院薬剤師の業務に関してよくご教示いただいたことを記憶しています。卒業後、直ちに宮崎医科大学（現宮崎大学）医学部附属病院に文部技官薬剤師として勤務することができました。自分にとっては難関と思っていましたが、在学中に行った病院実習の実績が評価されたようです。当時、病院実習は選択・希望であり、実習期間としては2週間が最長でした。振り返ると、これを3施設で実施していました。能力よりも体力で得た勝利とでも言えましょうか。学生生活環境の影響もあり、自ら病院薬剤師の道を選択していたのだと思います。平成9年からは薬事行政に携わり、新医薬品の承認審査、医薬品開発に関する相談、医療保険制度に関する業務等を経験させていただきました。この間、医薬品に関する知見についてより広く様々な観点から習得でき、大変貴重な機会を与えていただきました。そして、本学に赴任する前は徳島文理大学香川薬学部の医療薬学講座において、教育と研究を行ってまいりました。専門は、医療薬学領域の中でも医薬品評価科学を実践して活動しています。医薬品の開発段階から医療現場での臨床的位置づけについて基礎と臨床の両面から捉えることの重要性を認識しています。今後も、医薬品の適正使用に関する情報を提供できるよう尽力する所存でおりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、薬剤師教育センターは、6年制教育における薬剤師実務に関する教育や、現役の薬剤師等に対する生涯学習支援を中心となって推進し、国民が求める良質な薬剤師を育てる事を目的として設けられました。スタッフは、日本大学医学部附属板橋病院から同時期に異動された荒川基記専任講師（41期生）の2名です。卒後薬剤師教育に関しては、薬剤師教育年限の延長に伴い、これまでにも増して生涯研修の充実拡大が必要とされています。平成16年に設立された有限責任中間法人薬剤師認定制度認証機構では、薬剤師に対する各種認定制度の調整等を行っていますが、昨今生涯研修を提供する実施母体（生涯研修プロバイダー）の認証取得の動きが盛んになっています。今後、生涯研修プロバイダーの認証取得を視野に入れ、生涯研修プロバイダーとして選択していただくために信頼性の高い情報を提供すべく活動してまいります。桜薬会の皆様には、長年に亘り薬学卒後教育講座にご理解を賜っているところではございますが、生涯研修の質を一定水準以上に保つことにより一層の実務向上を図りたいと考えておりますので、引き続きのご指導ご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。

ファーマシューティカルコミュニケーション学ユニット

（1号館3階132）

校友会会員の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

当ユニットも3年目となりました。4年生の卒研生が4名、そして大学院生1名、さらに1名の研究生を迎えて賑やかになっております。研究に関しましては昨年同様に、本年も札幌で行われました日本医療薬学会で4年生2名も筆頭発表者として3つの演題を発表致しました。昨年は薬剤師のキャリアデザインがテーマでしたが、本年は携帯電話を利用したコミュニケーションツールの開発について発表致しました。ところで本ユニットのセミナーは毎年4月にビジネスマナーをしっかり学んでもらうことをスタートとしております。挨拶や身だしなみにとどまらず、名刺交換やお茶の入れ方、出し方なども細かく実習します。学生のうちから身につけておく事が様々な人々との出会いを増やし、自分の世界を豊かにしていけるからです。そしてアクションラーニングというスキルを実習し、問題解決、コミュニケーション、リーダーシップの実践力を身につけてもらっています。知識と思考の向上と多様性の受容、そして視野を広げるために4年生も文献を読むのはもちろんですが、多くの学会に参加してもらい、医療倫理についてのオープンなワークショップに参加するなど、大学の中にとどまらない活動をしています。さて、写真は教室旅行での京都嵐山での一コマです。今年は4年生の発案で保津川下りをしました。トロッコ列車で渓谷を上り、川下り（激流下り）を楽しむもので、真夏でしたが涼しく川岸にはさまざまな色の野鳥や鹿の親子なども見ることができました。夜は川床でお料理をいただくハズでしたが、あいにくの雨で室内での会食でした。この旅行には卒業生も参加してくれ、8名で賑やかに過ごせました。小さいユニットだからこそ、つながりを大切にしたいと思っています。皆にとって卒業

してからもいつでも帰れる場所になるといいと、教員もがんばっています。7月には新著「実践ファーマシューティカルコミュニケーション」を上梓しました。他にも研究テーマとして「メンタリングの効果」や「薬剤師のクレームの構造化」等を行っています。薬学も6年制となり、コミュニケーションも必修化しています。日本大学の卒業生はコミュニケーション能力が高い！と評価されるように楽しく身に付く授業をやっていきます。　　（井手口　記）

分子細胞生物学ユニット （3号館1階311）

卒業生の皆様にはお健やかにお過ごしのことと存じます。研究室の近況をお知らせいたします。大変残念なことに、須田先生がこの3月に退職されました。がっかりされる方々もさぞ多いことと思います。お引き止め出来なかったことを申し訳なく思っています。須田先生には、研究に教育に研究室のために身を粉にして尽くして頂きました。現在は東京都保健医療公社多摩北部医療センターで薬剤師として活躍されています。須田先生に心からお礼申し上げるとともに、大学での経験を生かして益々ご活躍されることを祈っています。

そして4月から須田先生の後任として広瀬大先生が助教として着任されました。広瀬先生は横浜国立大学を卒業された後、京都大学大学院で修士課程を、筑波大学大学院で博士課程を修められ、分子生物学的手法を駆使して菌類の分布様式や系統進化の研究を精力的に進めています。薬学部に就職したこともあって、生理活性物質の探索源としての菌類という視点で、その効率的な採集法の確立と、関連する菌の培養にも取組んでいます。

草間先生は従来から続けられているニューロラチリズムの研究に加え、学術フロンティア推進事業の一環として、運動ニューロン疾患に対して特異的保護作用をもつ天然物フラクションのスクリーニングなど朝早くから夜遅くまでお忙しく活躍されています。また、学生を厳しく鍛え上げている姿などちょっと渡邊先生に似てきたような気もします。

かく言う私、小川は今年5月にいよいよ還暦を迎え、7月には卒業生の皆さんに大学にお集り頂いたり、メッセージを頂いたりしてお祝いして頂きました。ありがとうございました。昨年から各委員会の仕事や授業で思うように研究も進みませんが、少しでも皆さんのお役に立てればと思って励んでいます。

さて、今年の卒研生ですが、卒研旅行の写真をご覧下さい。異変にお気づきになりませんか？　配属13人の中、男子学生が何と11人、女子学生が2人なのです。と言う訳でわが研究ユニットの女性は、草間先生、院生の佐藤さん、卒研生の2人の計4人なのです。さぞむさ苦しくなっただろうとお思いかもしれませんが、みんな品良く、卒研に、演習に、国家試験の準備にと頑張っています。

今年の桜薬祭は、11月1日（土）、2日（日）です。お暇があったら研究室をお訪ね下さい。お待ちしております。最後になりましたが、皆様のご健勝と益々のご活躍をお祈り申し上げます。　　（小川　記）

薬理学ユニット （3号館1階312）

桜薬会会員の皆様におかれましては各方面でご活躍のこととお慶び申し上げます。薬理学ユニットの近況についてお知らせ致します。

現在のスタッフは、伊藤芳久教授、石毛久美子准教授、小菅の3名で教育・研究活動に日夜励んでおります。昨年に引き続き、木原哲郎博士、阪田泰子博士が研究員として在籍しております。本年の3月には、昨年度に配属された卒業研究生11名は無事卒業して、国家試験にも合格し、それぞれの進路へと巣立っていきました。また、4名が博士前期課程を修了いたしました。4名はコツコツと実験を重ね、多くの研究成果を上げ、3月に行われた日本薬理学会年会（谷口耶絵子さん、平林美緒子さん）、日本薬学会年会（吉田裕司君、武元梢さん）で発表いたしました。卒業後の進路は、病院、調剤薬局、製薬会社、CRO、大学院への進学などと様々です。今後も、校友会諸兄姉のお世話になることがあると思いますが、ご指導、ご鞭撻の程よろしく御願い申し上げます。

本年度も当ユニットには多くの学生と大学院生が在籍しております。昨年度より所属している博士前期2年の7人に加え、新たに3名の大学院生が加わり、夜遅くまで研究に励んでいます。さらに、13名（男性9名、女性4名）の4年生が配属され、総勢28名の賑やかな研究室となっております。本年度の卒業研究旅行は、4年生の企画により、7月30日から31日に下部温泉に行ってきました（写真はその時の集合写真です）。初日は、富士サファリパークに行き、車から多くの動物たちを見学するだけでなく、小動物や赤ちゃんライオンとのふれあいを楽しみました。夜は恒例の懇親会で、教員、大学院生、卒業研究生を問わず、夜遅くま

で大いに盛り上がり親睦を深めました。また、翌日には、天然記念物の富岳風穴見学、桃狩り、河口湖散策、ワイン工場見学と盛りだくさんの2日間でした。幹事の綿密な準備のおかげで楽しい時間を過ごすことができました。

後期に入り卒業研究も本格化して参りました。短い期間ですが、研究をおおいに満喫してもらいたいと思います。その後も卒業試験や国家試験が控えており、息をつく間もないかもしれませんが、大学生活の集大成として充実した時間を過ごし、来春には全員揃って卒業し、薬剤師となって社会へはばたくことを願っております。

6年制教育がスタートし、薬学をとりまく環境もますます厳しさを増しておりますが、会員の皆様方には今後ともお力添えのほど宜しくお願いいたします。最後になりましたが、皆様のご健康と益々のご活躍をお祈り申し上げます。

（小菅　記）

微生物学ユニット（3号館1階314）

さわやかな秋となりましたが、桜薬会会員の皆様におかれましては益々ご活躍のこととお慶び申し上げます。当研究ユニットの近況をお知らせ致します。

井口先生は1年生の早期体験実習を無事に終えた後ゆっくりとする間もなく、後期に入っても講義、実習、ワークショップとまだまだ忙しい日々を過ごされております。板垣先生、小林先生、私(元吉)も井口先生のご指導の下、変わらず教育・研究に励んでおります。板垣先生と小林先生は昨年度に引き続き、研究や講義、実習等でお忙しい合間をぬって担任としてもきめ細やかに学生の指導にあたられております。

昨年度の卒研生はとにかく元気で、研究や勉強はもちろんイベントなど何をやるにしても意欲的に参加してくれました。その積極性を活かして社会の一員として活躍していることと思います。

本年度ですが、約半年間の病院実習を終えて、M2の小林由梨さんが大学に戻って参りました。実習での様々な経験を経て以前よりも積極的になったように思います。加えて、この3月に学部を卒業した鈴木祐介君と濱野由宜子さんが博士前期課程1年生として当ユニットの一員となりました。三人ともタイプは異なりますが、それぞれ自分のスタイルで研究に取り組んでおります。卒研生は男性5名、女性11名の計16名が配属されました。一見すると大人しい印象を受けますが、やるべきことをきちんとやる芯の強さを持っているように思います。

前期試験が終わってまもなくの7月末には群馬県伊香保・草津方面へ卒研旅行に行って参りました。初日は牧場でジンギスカンを堪能したり乗馬や楽焼きをしたり、翌日もそば打ち体験をしたりとかなり盛り沢山の旅行で、ユニット内の親睦が深まったのではないかと思います。

後期に入り卒研生も研究や勉強に忙しい日々を過ごしております。4年制最後の学生となる訳ですが、残りの学生生活の中で国家試験の勉強だけでなく、少しでも多くの経験を積んで人としても成長して欲しいと思います。そして、来春には無事に医療人の仲間入りをしてくれることを願っております。

いよいよ本格化して参りました6年制教育においては、現場で働いていらっしゃる諸先輩方のお力添えを頂く機会が益々増えるかと思います。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

末筆ではございますが、会員の皆様のご健康とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

（元吉　記）

機能形態学ユニット（3号館1階315）

桜薬会会員の皆様におかれましては各方面で御活躍のこととお慶び申し上げます。また、昨年度、大学院博士前期課程を修了された4名及び卒研生（実験組10名、演習組5名）15名のそれぞれの道での今後のご活躍を期待しております。

機能形態学ユニットの近況をお知らせ致します。平成20年度の本ユニットは教員4名（草間教授、木澤准教授、齋藤助手、益子）に博士前期課程2年2名及び1年1名の大学院生を加え、教育・研究活動に日夜励んでいます。新たに16名（実験組11名、演習組5名）の個性溢れる卒研生が配属され、5月から実験組は少しずつ卒業研究も始まり、研究室が賑やかになっています。短い期間ですが、研究室生活を大いに満喫してもらえればと思います。今年の卒研生は非常に仲が良く、既に何度も研究室の懇親会を行い、卒研生同士また教員・院生と卒研生の親睦も十分深めています。

7月31から8月1日にかけて、箱根に1泊2日の研究室旅行に出かけました。新宿から箱根湯本までロマンスカーを使い、そこから箱根登山鉄道、ケーブルカー、ロープウェイを乗り継いで芦ノ湖に行きました。途中、昼食で立ち寄った大涌谷は約3,000年前に箱根火山地帯の最後の爆発で出来たそうです。古来より「大地獄」と呼ばれていましたが、明治6年に明治天皇・皇后両陛下が箱根に御静養に来られる際に「両陛下がお出になる地に地獄があってはおそれ多い」と大涌谷と改称されたそうですよ。また、芦ノ湖では定番の海賊船で、埼玉西武ライオンズの江藤 智選手（たぶん！）を見かけました。家族サービス中だったので、声はかけませんでしたがちょっといい思い出です。夜には、バーベキューや花火大会に、メインイベント!?の懇親会と盛り沢山の研究室旅行で英気を養いました。幹事の皆さんご苦労様でした。

現在、卒研生は卒業研究の発表会の準備のために連日研究室で頑張っています。卒業論文作成、卒業試験、国家試

験と卒研生には忙しい時期になりますが、是非頑張って残りの学生生活を有意義なものにしてもらいたいものです。

6年制教育が始まり、薬学をとりまく環境も非常に厳しい状況ではありますが、校友諸兄姉におかれましては今後とも御指導、御鞭撻の程宜しくお願い致します。最後になりましたが、会員の皆様の御健康と御活躍をお祈り申し上げます。

（益子 記）

生化学ユニット （3号館2階321）

暑さも峠をこえたようで、日に日にしのぎやすくなってきました。桜薬会会員の皆様におかれましては各方面において益々のご活躍のこととお慶び申し上げます。

平成20年度の当ユニットの近況をお知らせいたします。今年度も当ユニットは、安西偕二郎教授、小林俊亮准教授、助教の大橋3名と、新たに加わった博士前期課程1年の大学院生4名で教育・研究に日夜励んでおります。今年3月には、樋口孝君が博士後期課程を修了し、社会へ巣立ちました。新たなる場所でがんばっているようです。

今年度は、13名（男性12名、女性1名）の卒業研究生が新たに配属され、5月の顔合わせを機に卒業研究が始まりました。それぞれに病院実習や薬局実習のない期間や授業の合間をぬって、研究室に顔をだしてがんばっております。恒例の卒研旅行は、今年は皆の予定が合わなかったため、牛角でのコンパとなりました。前期試験後に行ったのですが、皆、試験勉強で消耗した体力、脳力？を補給するかのようにみごとな食べっぷりでした。この勢いで、これから待ち構えている卒業試験、国家試験も乗りきってほしいと思います。そして来春には、全員揃って吉報を手にすることができればと願っております。

末筆ではございますが、会員の皆様のご健康とご活躍を心よりお祈り申し上げます。 （大橋 記）

衛生化学ユニット （3号館2階324）

桜薬会会員の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。衛生化学ユニットの近況をお知らせ致します。教員は、手塚先生を中心に、榛葉先生、渡邊の3名の教員で研究と教育に励んでおります。研究活動の貴重な戦力である大学院生ですが、昨年度の卒業研究生の実験組8名のうち6名が大学院に進学し、後期課程（D2）1名、前期課程（M2）の4名をあわせ総勢11名が在籍することになりました。実験組の卒研生が8名ですので、大学院生の方が多くなり、衛生化学ユニットにとってはじめての構成です。7月の終わりには、4年生の企画で1泊2日の研究室旅行に行ってきました。小田原でのちくわ作り体験にはじまり、伊東温泉では花火や宴会で盛り上がり、2日目にはシャボテン公園でカピバラと対面、最後は箱根でバーベキューと場所を変えながら教員、大学院生、卒研生が親睦を深め、日頃のストレスから解放された良い旅行となりました（写真左）。

夏休み中の8月29日には、「ひらめき☆ときめき サイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI」を榛葉先生が中心となって開催しました。これは、文部科学省科学研究費補助金を採択されている研究者が、その研究成果を社会に還元するために行う事業です。本学部にとっては、はじめての開催になります。「“からだが太る秘密”－メタボリックシンドロームへの挑戦－」というテーマで、小学5年生から高校3年生までの23名が参加し、実験やディスカッションを行うことで「研究」とはどういうものなのかを学んでいきました。最初は緊張してとまどっていた参加者も、次第に実験を楽しそうにこなしていました。最後には「未来博士号」の授与を行って、将来、研究者の道へ進むことを願い、プログラムを無事終えることが出来ました（写真右）。また、研究成果を社会還元することの重要性をスタッフ一同強く感じることが出来ました。

最後となりましたが、桜薬会会員の皆様のご健康と益々のご活躍をお祈り申し上げます。 （渡邊 記）

環境衛生学ユニット （3号館2階325）

当ユニットの近況をご報告させていただきます。本年度、3種の研究課題「ヒ素の化学形態別摂取による発癌リスク評価－新規発癌機序を含めた学際的アプローチ－：基盤研

究（B)」、「ヒ素発癌に関わる多様なヒ素活性種と発癌組織特異性との関連：基盤研究（C)」および「難治性消化器疾患に関わる新規食生活要因の提言およびその病因論的考察：萌芽研究」に対して、科学研究費補助金を獲得しました。研究遂行にあたり、当ユニットの教員（山中、立川、加藤、溝井）および大学院生（博士後期課程第1学年西山耕太郎および浦野　敦、および博士前期課程第2学年下田康代）を中心にスタッフ一同、これら研究課題の目的達成のため鋭意努力しております。西山耕太郎院生はフォーラム2008：衛生薬学・環境トキシコロジー（日本薬学会主催）において、10月17日に「クロラミンの大腸内生成にともなう大腸癌promotionの増強作用」という演題で口頭発表を予定しており、また、浦野　敦（社会人）院生は今までの研究成果が職場（東邦大学医療センター佐倉病院薬剤部勤務）から高い評価を受け、その研究内容の一部が病院内で公開されました。また、下田康代 院生は、10月から科研基盤研究(B)「ヒ素の化学形態別摂取による発癌リスク評価－新規発癌機序を含めた学際的アプローチー」に関する研究の中で、海産物由来のヒ素の形態分析およびその代謝物の同定に関して、最新鋭の質量分析装置を用いた分析技術の修得のため、(独) 労働者健康福祉機構・東京労災病院産業中毒研究センターにて半年間の研究指導を受ける予定でおります。その他、バイオフィルムを用いた殺菌剤の評価法に関する成果は企業の研究者から高い評価を得ており、積極的に学会発表等を行っております。

4月より卒業研究生15名（男性10名、女性5名）が配属され、5月から8月にかけて病院または保健薬局において4週間または2週間の実務実習を行いました。実習先においては、多くの桜薬会会員の諸先生方に大変お世話になりました。この場を借りて、お礼申し上げます。さらに、桜薬会会員の皆様方には、学生の就職等でもお世話になるかと存じます。今後とも、ご指導、ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

文末になりましたが、桜薬会会員の皆様のご健康と益々のご活躍を祈念いたします。　（溝井　記）

ゲノム創薬学ユニット（3号館4階343）

桜薬会会員の皆様におかれましてはますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

昨年度は初めて卒業研究生（実験組2名、演習組2名）が配属され、不安の中にも喜びのもと1年のスタートとなりました。様々に戸惑いながらもお蔭様で無事1年を終えることが出来ました。3名は無事3月に卒業し、国家試験に合格し、就職や進学といった新たな道に進み始めました。残念ながら1名は卒業延期となってしまいましたが、9月には卒業できることを期待しています。

さて、今年度の様子ですが、卒業研究生は演習組1名が配属されました。昨年度と比べこじんまりとした構成です。しかし、今年度の前期は、新たに応用生物化学と特別講義IIの2科目の授業を担当するなど、毎年変化する出来事にいつも新鮮さを感じています。夏休みが終わると、卒業研究生にとっては卒業まで余すところ半年となります。夏休み後は、卒業試験・国家試験の勉強にこれまで以上に励んでもらい、来春には卒業して、国家試験に合格し社会の第一線で活躍することを願っています。

末筆になりましたが、桜薬会会員の皆様のご健康と益々のご活躍をお祈り申し上げますと共に、今後ともよろしくご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。　（小林　記）

病院薬学ユニット（5号館2階524）

暑い夏もやっと終わり、ようやく過ごしやすい季節となりました。桜薬会会員の皆様におかれましては、ご健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。平成17年度に開設された病院薬学ユニットもお陰様を持ちまして4年目を迎えることができました。当ユニットは、中村均教授と筆者（濃沼：専任講師）の教員2名で運営しており、国民に求められる薬剤師を育成するために日々、教育および研究に力を尽くしております。ユニットの研究テーマとしては、「医薬品に起因した医療事故の発生要因の解析」、「多変量解析やテキストマイニングを用いた教育および臨床研究手法の開発」、「新たな病院薬剤師業務のあり方に関する調査」となっております。また、本年度は新たに7名の修士課程1年生を迎え入れたことにより大学院生は社会人修士課程2年生を含めると計11名の大所帯となりました。2名は既に製薬企業や大学で活躍している社会人院生であり、日常の業務内容に関する問題点を解決すべく研究に打ち込んでおります。学内の院生は、「データベースを活用した事前実習教育プログラムの開発」や「医療への統計的品質管理の活用に関する研究」をテーマに研究に励んでおります。そして、本年度は卒業研究生が9名配属されました。卒業研究生の研究テーマとしては、教育関連として「実務実習事前学習のための模擬症例のあり方」や「事前学習に対する実務学習受け入れ施設の意識調査」、更に医療事故関連としては「調剤過誤を防止するための色彩に関する官能評価」や「薬剤師による医療安全研究のアウトカムスタディー」等となっております。最近では卒業論文の提出期日が早まったことからも、皆夏休み中も頑張って研究を行っておりました。

平成21年度から、実務実習事前学習が開始されます。実務実習事前学習は6年制教育で義務化された5ヶ月間の実務実習に先駆けて、大学内の実習施設で薬剤師業務の基本を修得させることを目的に実習を行うものです。このような事からも実務に携わっておられる諸先輩方には、今後も多くのお力添えを頂くことになろうかと思われます。ご指導ご鞭撻の程、何卒宜しくお願い致します。末筆となりましたが、桜薬会会員の皆様のご健康と益々のご活躍をお祈り申し上げます。　（濃沼　記）

セルフメディケーション学ユニット（5号館2階525）

研究室が発足して5年目に入りましたが、研究室の環境が懸案事項です。研究スペースは、657A防爆室及び647・348実習室の一部を使用していますが、講義時間外や休暇中の冷暖房が使用出来ず、苛酷な状況ですが院生・学生は頑張っています。

大学院博士前期課程社会人コースの小川光一氏は、メタ

ボリックシンドロームとサプリメントをテーマに修論をまとめられ修了されました。二年間研究室を支えてこられた松原助手は3月で退職され、木更津の薬局で薬剤師として再出発されました。後期過程の劉　素延さん、同社会人コースの針ヶ谷哲也氏、前期課程の秋田綾子さんは、それぞれのテーマで秋の生薬学会、癌学会、学術講演会で研究成果を報告する予定です。今年卒業した奥田早紀子さんは、前期過程に進学し先輩に負けない様に頑張っています。卒業研究生は、8名（男子3名・女子5名）が着手し昨年同様に華やかになりました。現在、病院・薬局実習も終了し、卒業研究のまとめや国試対策の勉強に打ち込んでいます。ユニット研修旅行は8月に伊豆へ行き、蒲鉾作り体験やバナナワニ園を見学し、親睦を深めてまいりました。研究員の孫　奕(Sun Yi)博士は精力的に研究を進め、4報の論文を発表しました。現在は、東京大学農学部において日本学術振興会研究員として頑張っておられます。

研究活動では、ユニットのメインテーマであるがん予防・抗炎症等で昨年度5報の論文を発表することが出来ました。共同研究では、韓国国立韓医学研究院との「薬用植物の抗炎症効果に関する研究」、黒川教授（九州保健福祉大学薬学部）とは「天然物の抗インフルエンザウイルス活性に関する研究」、秋久教授（本学理工学部物質応用化学科）とは「ニーム（インドセンダン）成分の機能性評価と高度利用に関する研究」をテーマに、その他に学部内6件と、国内外の研究者と共同研究を行っています。

安川は4月から図書館長として学部執行部に参加し、学部運営に協力しています。薬用植物園の運営委員長も仰せつかり、薬草園の管理体制の見直しに力を入れるとともに、日本植物園協会の理事として協会にも協力しています。学部祭（11月1日）では、薬草教室で本学卒の千葉大学教授池上文雄先生（17期）から「千葉県の薬草－身近な薬用資源」の演題で講演して頂く予定です。皆様のご参加をお待ちしています。

末筆ながら、卒業生の皆様のご健勝をお祈り申し上げますと共に、ご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

（安川　記）

薬事管理学ユニット （5号館3階535）

桜薬会会員の皆様におかれましては、ますますご健勝にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。

平成20年度の薬事管理学ユニットは、教員3名（白神教授、泉澤専任講師、詫間助手）、大学院博士後期課程6名（社会人）、前期課程11名（うち社会人2名）、卒業研究生13名、研究員4名、研究生4名が在籍しております。4月には新年度顔合わせ会が開催され学生は社会人院生の皆様と交流し大きな刺激を受けたようでした。5～6月には医療薬学社会人コースの当ユニットが担当する社会薬学特論、薬剤疫学・薬剤経済学特論が開講され、多くの著名な先生方にご講義いただきました。研究面では大学院生は薬剤経済分析などを始めとした多彩なテーマに取り組み、また卒業研究生も各自のテーマをたて薬局へのインタビューなど積極的なフィールドワークに熱心に取り組んでおります。9月上旬に行われる日本社会薬学会などで大学院生が学会発表を予定しております。

7月27日のオープンキャンパスでは、当ユニットの社会人院生、卒業生の皆様方にご協力いただいた「薬剤師にはいろんな活躍の場があります！」というポスターを研究室の廊下に貼りだし、多数の高校生・父母の皆さんにご覧いただきました。また、活躍されている卒業生へのインタビューを研究室にて上映しました。これから入学を考えている皆様に薬剤師の仕事に関し具体的にお話しできたので、大いに興味を持っていただけたように思います。

今年の研究室も男性が多く、スポーツにも力を入れております。5月の薬学部スポーツ大会ではソフトボールに参加し、6月にはボーリング大会を開催し大いに腕を競い合いました。また、8月初旬には河口湖にて1泊2日の研究室旅行を開催しました。バーベキューや湖畔の花火大会、遊覧船などでも盛り上がり研究室メンバー同士が親睦を深め楽しい時間を過ごすことが出来ました。これも4年生の旅行係さんの献身的活躍があってのことです。

これからも社会の現場で活躍されておられる皆様からのご意見を賜り、私どもも研鑽し現場へフィードバックし実践してまいりますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。末筆ではございますが、会員の皆様方の今後の益々のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。　（詫間　記）

健康・スポーツ科学ユニット （6号館1階616）

桜薬会会員の皆様におかれましては、各方面において益々ご活躍のこととお慶び申し上げます。

健康・スポーツ科学ユニットの近況についてお知らせ致します。

今年度も変わりなく、本研究室は松原准教授と私西川の両名で日々教育と研究に励んでおります。また今年度は卒業研究生3名が所属しておりますが、全員男子ということもあり、昨年よりも更に賑やかな研究室となりました。

6月18日にはスポーツ教室アーチェリーが行われ、当ユニットの卒研生3名も参加しました。久々に触るアーチェリーの弓矢に戸惑いながらも、インストラクターの方の丁寧なご指導のおかげでゲームができるまでになり、先輩として後輩に教える場面も見られました。今回、我がユニットの卒研生は昨年も参加しただけに上達も早く、的を狙い撃ち、高得点を獲得すると、“お～、すご～い！”という後輩たちからの歓声に照れながらも自信に満ち溢れた顔をしていました。

また、当日はOGの佐藤佳さんが平日にも関わらず遠方より足を運んで下さいました。現在、病院薬剤師としてご活躍され、アーチェリーの達人でもあります佐藤さんには、参加学生のアーチェリー指導にもご協力頂きました。佐藤さんには指導の合間の談笑で、病院現場での薬剤師の業務等のお話をして頂き、いろいろな質問を積極的にする卒研生の姿が印象的でした。アーチェリーを通していろいろな方との出会いとコミュニケーションができ、OGの方との親睦を深めたスポーツ教室は、卒研生にとって大変貴重な場となったようです。

後期になりますと、いよいよ卒業論文完成に向けての最終的なまとめとともに、演習講義、総合講義など授業・試験や国家試験に向けての勉強が本格化して参ります。来春には我が研究室の全員が無事卒業し、重ねて国家試験に合格できることを願っております。

現在、後期授業の準備と9月18日から行われる日本体力医学会の研究発表に向けて多忙な日々を過ごしておりますが、今年度も11月初旬の文化祭頃には保健体育学研究室の同窓会を開催したいと思います。多くの同窓生皆様のご出席を賜りますことをお願い申し上げます。

最後になりましたが、会員皆様のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。（西川 記）

臨床医学ユニット （6号館4階645）

秋も深まり、学問や芸術そして食欲が刺激される昨今、桜薬会会員の皆様におかれましては益々ご活躍のこととお慶び申し上げます。

臨床医学ユニットは現在、鈴木孝教授、小野真一准教授、浅見覚助教、田畑恵市助教の4名のスタッフで研究・教育を行っております。今年は四年制体制の最後の4年生が14名配属されました。個性豊かな面々が、卒業研究や病院・薬局実習、国家試験対策、就職活動等のスケジュールを精力的に取り組んでおります。研究ユニットには社会人大学院生として日本大学板橋病院から葉山達也氏が新たに加わり、現在社会人大学院生2名を含む博士後期課程3名、博士前期課程4名が日夜研究にいそしんでおります。特に、博士後期課程2年生の徳田栄一氏は今年度より日本学術振興会の特別研究員に採用され、筋萎縮性側索硬化症の研究を強力に推し進めております。また、今年は浅見覚先生および社会人大学院から大塚進氏が博士号を取得される予定です。

春のスポーツ大会では、今年も臨床医学ユニットでソフトボールチームを結成し、勝負に挑みました。残念ながら初戦で姿を消すことになりましたが、女性陣の奮闘もあり多くの見せ場を作ることができました。

7月から8月にかけ、今年も2度のオープンキャンパスが行われ、多くの高校生が本学に来校しました。臨床医学ユニットでは、「生きているってどんなこと ～人のバイタルサインを知ろう」というタイトルで体験実験を行いました。高校生たちはみな、慣れない手つきながらも目を輝かせながら血圧測定やピークフロー測定を行っておりました。

夏には卒業研究旅行で山梨へ行きました。北習志野の都会の喧騒から離れ、ゆったりと温泉につかって身も心も癒すことができました。桃狩りでは採れたての甘い桃を口いっぱいに頬張り、荘厳な富士山（5合目）では澄んだ空気を胸いっぱいに吸い込んで、みなリフレッシュすることができたのではないでしょうか。

最後になりましたが、現在は四年制から六年制に切り替わる薬学教育の激動の時代の真っただ中であります。薬学共用試験（OSCE、CBT）の準備も着々と進行し、来年度には本番を迎えようとしております。しかしながら、薬学共用試験においても、その後の実務実習においても桜薬会会員の皆様のお力添えが必要不可欠であります。今後とも御指導、御鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

（田畑　記）

桜の木の下で

10期生同窓会

10回生の同期会が、今年5月18日（日）午後1時から同期の米川さんのご好意でJR大崎駅近くの日本海「海の華」で開催しました。ご出席頂いた先生方は、澤村先生、滝戸先生、小山先生並びに樺沢先生ですが、座敷席の特徴を生かし、各先生方を囲み幾つかの輪ができるように適宜座ることにしました。また参加者は、大学で後輩の指導にあたっていた牧村、木村両氏の参加を含め総勢40名という人数でした。今回都合により不参加の同期生のメッセージは、木村由美子さんの計らいでペーパーにまとめられて配布されましたので、皆さん近況を知ることが出来ました。

会は、高橋君の司会により先ず物故者への冥福を祈り黙祷を捧げた後、先生方を含め各自自己紹介と現状報告から始まりました。

卒後43年を経過したせいか、最近亡くなった同期生の懐かしい話、卒業後初めて会う人、顔は分かるが名前が思い出せない人、遠方から来た人それぞれですが、少し話し出すと一瞬にて昔にタイムスリップできるのが、なんと言っても楽しみです。先生方を含め皆さん酒量が控えめになりましたが、座の盛り上がりには欠けることもなく久しぶりの集いを充分堪能していたようです。また同期生の大屋敷君が、北陸大学の学長に就任したという大出世に感嘆し有志からカンパを集いお祝いとしました。改めてお祝いを申し上げます。

最後は、2年後の45周年の同期会の再会を誓い短くも充実した時間を過ごすことができました。次回は、同期生全員と会えることを期待していますので、是非参加されるようお願いします。何時もながら同期会の開催にご尽力を頂いた木村由美子さんには、感謝しています。　（小林郁夫）

平成17～20年の物故者

清水（南雲）和子さん（平成18年3月）
菊池慧子さん（平成19年3月22日）
坂田英明さん（平成20年2月14日）

第20回桜神会報告

平成20年5月27日、横浜国際ホテルにおいて第20回桜神会が開催されました。桜神会は、神奈川県内在勤の本学出身の薬剤部長が声を掛け合って集まったのが前進ですが、最近では薬剤部長に限らず幅広く卒業生に声をかけており、今回は病院、保険薬局、企業に勤務する有志が25名集まりました。今回より、長年本会の会長職をお勤めになられた藤本康嗣先生（横浜新緑総合病院：55年卒）より会長を引き継ぎましたので、会の紹介を含めて当日の報告をさせていただきます。

参加者からは昨今変化の著しい医療業界、そして薬剤師のあり方など職種や年齢を超えて熱心な議論に花が咲きました。本会は参加者から一言スピーチを頂戴するのが常になっており、会場からは自己紹介を含め全員からお言葉を頂戴し、参加者の間で名刺交換も行われ新たなネットワークが次々にできました。また、ご来賓の校友会長の山内盛先生からは、往年の山さん節を含んだお言葉を頂戴し、懐かしく拝聴させていただきました。そして、今回、千葉県からご出席いただいた小清水敏昌先生（順天堂大学浦安病

院：42年卒）からは、7月に開催され小清水先生が大会長を勤められた第11回日本医薬品情報学会総会・学術大会の宣伝を含め、お言葉を頂戴いたしました。賑やかに、そして楽しい時間を過ごさせていただき、ご参加の皆さんもご満足いただけたと思います。

次回は11月17日に同じく横浜で開催する予定になっております。次回はこれまでと趣向を変えて、先生方のお役に立つ話題を提供させていただくプチ学術講演も併せて企画しておりますので奮ってご参加ください。折りしも台風シーズンと重なりますので、横浜駅から雨に濡れずに行ける会場を選ぶ予定です。前回までご参加の皆様にはご案内を差し上げますが、案内を希望される卒業生の方は、赤瀬（済生会横浜市東部病院　t-akase@f3.dion.ne.jp）までご一報いただければ幸いです。　（34期　赤瀬朋秀）

5期生同窓会

平成20年6月14日（土）18時よりアルカデイア市ヶ谷（私学会館）で開催されました。当日、朝方の岩手、宮城内陸地震がありました。震災に見舞われた方々に心よりお見舞い申し上げます。

4年ぶりの同期会の開催、卒業後48年と言うことで42名が集まり、恩師の先生方も澤村先生、杉井篤先生、小山隆先生、そして校友会から山内盛先生が出席頂き、地震の影響で急遽欠席された方もおり残念でしたが、南は遠く九州、広島、大阪、京都、名古屋をはじめ、また卒業後初めての方、ご夫婦での出席とまた久しぶりでどなたか分からないと聞かれる一幕もあり、開催されました。司会は中西氏、乾杯田中氏そして紹介は樋口氏、と進行し、色々話題も豊富で、大いに盛り上がりにぎやかに開催されました。2年後に卒業後50周年記念の同窓会を開催の雰囲気が盛りあがったところで、9時前には坂田氏の中締めでお互い健康で再会を約し三々五々会場を後にしました。充分に皆様親交を深められたと幹事一同思っております。

次回、開催日も早めに会報に載せたいと思っております。また次回開催へのご希望、ご意見がありましたら是非幹事までお寄せ下さい。　（長谷川明、樋口哲夫）

八期の会開催報告

平成20年は8期生にとっては卒後45周年に当たり、この機会に去る6月15日（日）赤坂のANAコンチネンタルホテル東京において同窓会を開催しました。

遠く秋田から田原（平野井）和子さんをはじめ福島の高野（木崎）静子さん、宇都宮の村田（溝川）和子さん、名古屋の清水邦彦君、神戸の安保（広田）万里子さん、四国からは山崎純弘君、正木（窪内）節子さん、米本（遠藤）富美代さんの3名が駆けつけ総勢42名が集まりました。

幹事長には伊藤 進君、副幹事長に河南雅章君の両名が、そのほか20数名の方々に幹事を引き受けていただき数回の幹事会を開催、幹事会が終わるたびに予行演習と称しての居酒屋での情報交換会もなかなか有意義なものでした。

集合写真を撮影後、芝（佐野）紀代子さん、河南雅章君の名コンビの司会で物故者への黙祷を行ったあと来賓としてご出席いただいた山内　盛校友会会長から最近の母校の状況のお話をいただき、日本大学のシンボルマークが新たに制定されたということで、新マークの入ったストラップがお土産として出席者全員に渡されました。

田原和子さんの音頭で乾杯をし、挨拶は数人の方からの近況報告をしていただく程度にし、各テーブルでのグループでの会話に重きを置きました。

途中、水村順子さんが手さばきも鮮やかな手品を披露し

会場を沸かせる一コマもありました。

最後は校友会からいただいたCDの伴奏で若きエンジニア、応援歌そして校歌を学生気分にもどり大声で歌い、青木正忠君の閉会の挨拶をもってあっという間の2時間が過ぎてしまいました。

閉会後は全員が2次会の会場に繰り込み、さらには3次会にも。話も尽きず、名残も尽きずの一日でした。

次回は、河南雅章君が幹事長で2年後に開催予定です。

（前田圭一）

第38回東桜会開催

平成20年6月21日（土）午後4時からエーザイ(株)別館会議室に於いて、校友会より渡邊和子教授をお招きし、第19回総会に続き第38回実務研修会が約20名の出席で開催されました。今回の「薬剤業務を考える」テーマについて、「治験業務をめぐる諸問題」石川 浩子先生（駿河台日大病院　H1年卒＝写真）、「腎疾患患者における服薬指導」宗 村盛先生（順天堂東京江東高齢者医療センター　H7年卒）、「感染制御と薬剤師の役割」木村 英晃先生（東京歯科大学市川総合病院　H6年卒）の3演題に対し、金子 健先生（慶應義塾大学病院　H1年卒）の座長により、活発な勉強会となりました。また、懇親会では、日常業務の悩みをざっくばらんに話し、情報交換や、アドバイスをもらったり、またプライベートに食事会を約束したり、学生時代のことを楽しそうに話すもの等いろいろな話題で盛り上がり、次回の再会を約束し散会となりました。

東桜会は、平成元年に澤地　次雄先生（S34卒）を中心に設立され、日本大学薬学部卒業生で東京都病院薬剤師会に所属する会員をもって構成され、会員数は120名で、来年で20週年を迎えます。春、秋の年2回、土曜日に実務研修会と懇親会を行っており、春は、会員報告、秋は、臨床医などによる特別講演とし、テーマも身近な日常業務の話題を中心としています。

次回は、11月の土曜日［エーザイ（株）別館会議室］を予定しています。

（15期　大寿美　譲）

第18期卒後35周年記念同期会

6月29日（日）東京ガーデンパレスに於いて18期同期会が35年目として開催されました。

あいにくの雨にもかかわらず北海道から四国まで全国より33人の参加がありました。面影のある者から、まるっきり分からないものまで多種多様でした。特に男性陣は紅顔の美少年が「お前は誰だ」状態になっていました。しかし、乾杯の挨拶の後は一気に学生時代に戻り会話が弾み、特に田中達夫君が学生時代の集合写真を持参しており、現在とのギャップに盛り上がりました。恩師の先生方も6名の参加を頂きましたがお元気で、我々より変わっていないように感じました。

欠席の方々よりもコメントを頂き、2次会で披露されましたが、近状が良くわかり、また盛り上がりました。

今後は皆が参加しやすくなる定年後（もうそんな年か！）に開催したいとの声も上がっています。その時は今回欠席の方もぜひ参加をお待ちしております。

なお、本文中の写真の件ですが、参加者には後日配布予定ですが欠席の方で欲しい方は大学安川、斎藤まで連絡ください。　　渡部（カラス）記

ユニット同窓会

分子細胞生物学ユニットホームカミングデイ

分子細胞生物学ユニット（旧生物学研究室）の同窓会‘ホームカミングデイ’を7月19日（土）に薬学部2号館多目的ホールにおいて開催いたしました。

本年は小川吉夫教授の還暦（戊子）にあたるため、そのお祝いを兼ねました。梅雨明け直後の猛暑の昼下がりでしたが、28名のご参加（うち2名はお子様）をいただきました。希望された方に6年制のために建設された8号館をご案内しました。見学された方は施設の充実ぶりと薬学の教育内容の変貌にびっくりされていました。祝賀パーティに入り、まず現在学部特任教授・渡邊和子先生の心温まるお祝いのことばをいただきました。同窓生の方々には小川先生のへお祝いと近況を語っていただきました。中でも家族4人で駆けつけてくださった旧姓渡邉さんファミリーからは明日への希望をいただきました。須田篤博前助教からは都内の病院でご活躍の近況を伺いました。一同から小川先生へのお祝いとして赤いシャツとイーゼルを贈りました。生ビールを飲みつつ楽しく語らううちに小川先生のお顔はシャツ以上の色になられましたが、還暦とはという薀蓄をかたむけたお言葉をいただいてから名残惜しい中宴を閉じました。尚、お仕事等で不参加だった方々から小川先生にお祝いのメッセージ等をその後も続々と頂きました。この場をお借りしてお礼申し上げます。　　（草間記）

薬学部ニュース

薬剤師国家試験

3月8日(土)～9日(日) に実施された第93回薬剤師国家試験の合格発表が4月3日(木)にありました。本学新卒者の合格状況は、受験者207名、合格者188名、合格率90.8%でした。なお、全国平均合格率は86.3%であり、本学は今年も高い合格率を獲得しました。

OSCEトライアル

4月27日(日)に OSCEトライアルが行われました。対象学生100名 (4年生)、評価者144名 (学部教員と実務家との連携)、6ステーション・6レーンで行いました。薬学部としては今回で7回目となり、現在、本実施へ向けた最終調整に入っています。

薬草教室

5月10日(土) に薬草教室が開催されました。園芸研究家の川上幸男氏による「美しい花との出会い」と題する講演の後、薬用植物園への見学会が行われました。当日は雨天にもかかわらず、40名を超える近隣の薬草愛好家の方々が参加されました。

スポーツ大会

5月24日(土) にスポーツ大会が催されました。午後から雨の心配がありましたが、幸いにも降らずにすみ教職員、学生ともどもウオーキング、ソフトボール、テニスなどの競技に参加し、心地よい汗をかきました。

公開講座

6月7日(土) に公開講座が開催されました。講師として松戸歯学部教授の坂巻達夫先生をお迎えし、「私たちの体の未来－メタボリックシンドロームから学ぶこと」と題して講演をしていただきました。当日は、近隣に在住する150名を超える方々が聴講されました。狭心症や糖尿病という身近な症例について写真や図表を用いて分かりやすく解説していただきました。また、同時に薬用植物園への見学会も開催され、安川教授や生薬研究会の学生さんの説明に熱心に耳をかたむけていました。

後援会総会

6月14日(土) に平成20年度後援会総会が開催されました。19年度事業報告、決算・監査報告、20年度事業計画、予算および役員選出などの議事が行われました。その後、カリキュラム、学生生活などに関する御父母への説明会やクラス担任による個人面談会が実施されました。

オープンキャンパス

7月27日(日) および8月22日(金) にオープンキャンパスが開催されました。

参加者は7月、8月併せて1300名を超え大変盛況でした。10時からの全体説明会を皮切りに進学個別相談、松本教授と井口教授によるミニ講義、各研究ユニットによる研究室公開、分子細胞生物学ユニット・生体機能化学ユニット・物理学ユニット・臨床医学ユニットによる体験実験、薬草園見学、学生の引率によるキャンパスツアーなど盛りだくさんの内容であり、高校生や保護者の皆様に大変好評でした。

平成21年度日本大学薬学部入学試験期日及び科目等

	一般入学試験A方式	一般入学試験C方式	一般推薦入学試験（一般公募）	校友子女入学試験
募集人員	105名	10名	30名	5名 (合格基準に達しない場合には，合格者数が募集人員に満たないこともある)
出願資格	日本大学入学試験要項に同じ	日本大学入学試験要項に同じ	本学部での学業を強く希望し，合格した場合，本学部に入学することを確約できる者で次のいずれかに該当し，出身学校長が推薦する者 ①高等学校もしくは中等教育学校を平成21年3月卒業見込みの者で，高等学校第3学年第1学期までの全体の評定平均値が3.5以上の者 ②高等学校もしくは中等教育学校を平成20年3月に卒業した者で，卒業時の全体の評定平均値が3.5以上の者	①大学入試資格を有し，本学部への入学を第一希望とする者で，次のいずれかに該当する校友の子女(2親等内直系血族)である者 （中略） ②合格した場合，本学部に入学することを確約できる者
出願書類	①入学志願票 ②出願資格を証明する書類	①入学志願票 ②出願資格を証明する書類	①推薦書 (学校長推薦書・自己推薦書) ②入学志願票 ③出身学校調査書	①校友子女確認書 ②入学志願票 ③出身学校調査書等
選考方法	学科試験(マークシート方式) ①理科：化学Ⅰ・化学Ⅱ(生活と物質，生命と物質を含む) 60分【配点100点】 ②数学：数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B(統計とコンピュータ，数値計算とコンピュータを除く) 60分【配点100点】 ③外国語：英語Ⅰ･英語Ⅱ･リーディング 60分【配点100点】	学科試験 ①数学：『「数学Ⅰ・数学A」，「数学Ⅱ・数学B」』 【配点200点】 ②理科：「化学Ⅰ」 【配点200点】 ③外国語：「英語」 【配点200点】 ※英語についてはリスニングの成績は使用しない	①書類選考 ②面接 ③参考試験(マークシート方式) (1)化学Ⅰ・化学Ⅱ (生活と物質，生命と物質を除く) (2) 英語Ⅰ・英語Ⅱ・リーディング (1)(2)計90分	①書類選考 ②面接 ③参考試験（マークシート方式） (1)化学Ⅰ・化学Ⅱ (生活と物質，生命と物質を除く) (2) 英語Ⅰ・英語Ⅱ・リーディング (1)(2)計90分
出願期日	平成21年 1月8日(木)～28日(水) 窓口受付：1月27日(火)・28日(水)	平成21年 1月8日(木)～17日(土) 窓口受付：1月17日(土)	平成20年 11月1日(土)～7日(金)	平成20年 11月1日(土)～7日(金)
選考日	2月5日(木)	大学入試センター試験 1月17日・18日(土・日)	11月12日(水)	11月12日(水)
合格発表日	2月7日(土)	2月13日(金)	11月14日(金)	11月14日(金)
入学手続期間	2月9日(月)～18日(水)	2月16日(月)～24日(火)	11月17日(月)～11月28日(金)	11月17日(月)～11月28日(金)
入学検定料	35,000円	18,000円	35,000円	35,000円
試験会場	船橋，仙台，東京，名古屋，福岡	大学入試センター試験場	日本大学薬学部校舎	
出願書類送付先	日本大学入試センター		〒274-8555 千葉県船橋市習志野台7-7-1 日本大学薬学部 Tel 047-465-8480（直通）	

注意；前号記載と期日等の変更箇所がございます。ご注意ください。

平成19年度　薬学部校友会研究奨励金研究報告

研究課題：Ewing's sarcoma family tumorにおける確定診断の確立と臨床応用

臨床医学　浅　見　　覚

ユーイング肉腫（Ewing's Sarcoma: ES）は小児から若年成人にかけて発症する骨・軟部組織原発の小児悪性腫瘍の1つであり、未分化神経外胚葉性腫瘍（primitive neuroectodermal tumor: PENT）、およびAskin腫瘍とともに共通の特徴を有し、ES family腫瘍 （ESFT）として分類される。ESFTの共通点の1つである*EWS*遺伝子と*ETSs*（*ERG, E1AF, ETV1, FEV*など）遺伝子の相互転座がESFTの発生原因とされ、ESFTにおいてこの相互転座は、80~95%の症例に見つかっている。

今回ESFTに対して、多種の特異的primerを同時に用いて、数多くの*EWS-ETS*融合遺伝子をRT-PCR法によって一括して検出することは、迅速診断に結びつくだけでなく、造血幹細胞移植療法時に用いられる骨髄や末梢血中の微少残存病変の検索にも有用である。さらに本法を用いるメリットは、primerを一括して加えるが、primer同士のダイマーの形成や他の産物を増幅しないことが確認されているため、ESFTの転座遺伝子を少量の検体で、なおかつ短時間で検出することが可能である。ESFTやその他の悪性腫瘍の臨床検体（組織）、腫瘍細胞培養株から抽出したtotal RNAを用いて、分子生物学的手法によりESFTに特異的な融合遺伝子の検出を行い、さらに精製したsampleをCEQ 8000にてシークエンス解析を行い、融合遺伝子の確定を行った。

臨床検体に対しては29例の検索を行った。小円形細胞腫瘍群（small round cell tumors: SRCT）が23例、その他の腫瘍検体が6例であった。更にSRCT中のESFT検体は6例であったが、5例で融合遺伝子が検出された。また、ESFT以外の腫瘍からは*EWS-ETS*融合遺伝子は検出されなかった。

本実験方法を用いることにより、ESFTに特異的な融合遺伝子がESFTの細胞培養株及び臨床検体においてのみ検出され、他の悪性腫瘍では検出されなかった。また、各primerを同時に加えることにより、少量のsampleからでも短時間にかつ容易に検出することができ、ESFTの確定診断に有用であると考えられた。さらにシークエンサーを用いることにより、より正確な融合点の確認が可能であり、exonのtypeを確定することによって、予後の予知検索も可能であると考えられる。

日本大学・日本大学校友会ニュース

第12代総長就任

小嶋勝衛先生の任期満了に伴う次期総長選挙が6月19日に行われ、生物資源科学部部長の酒井健夫教授が新総長に選出されました。就任は9月1日で、任期は3年間。

酒井健夫教授　略歴

昭和41年本学農獣医学部（現生物資源科学部）獣医　学科卒。東京大学医科学研究所、厚生省、台糖ファイザ　ー薬理研究所を経て、56年農獣医学部専任講師、平成17年学部長。専門分野は獣医疾病予防学。64歳

校友大会

平成20年度校友大会は11月21日18時より「東京ドームホテル」で開催（会費：1万円）されます。日本大学の卒業生は明年3月に100万人になります。その仲間達と大きな輪を作り、あすの日本大学を背負う輪にしようとするための集まりです。本学の卒業生は誰でも参加することが出来ます。

日本大学の輪に入りましょう。入って下さい。参加希望の方は薬学部校友会事務局まで連絡を下さい。

校友会役員総会開かれ、田中会長再任

平成20年度役員総会は7月4日（金）15時から「東京ドームホテル」で開催された。19年度事業報告・財務報告が承認された後、20年度事業計画案・財務予算案が審議された。事業では平成21年4月着工（22年6月完成）で校友会館を千代田区三番町（JR市ヶ谷駅下車2分）に建設する計画案が審議され、資金は本年度末には約9億円の建設資金蓄積が出来る予算案が承認されました。

続いて、任期満了に伴う会長選出が行われ、会長・監事選考委員会から会長候補者として現会長の田中英寿氏が推薦され、承認されました。

なお、田中会長は9月10日開催された学校法人日本大学理事会で理事長に選任され、校友会会長職と法人理事長職の2つの重職を兼担されることになりました。

校友子女入試

平成21年度日本大学入学試験でも校友子女入試が行われます。薬学部校友子女入試要項は本誌19ページ）に収載いたしましたが、他学部でも実施されます。直系2親等以内の子女であれば、総ての実施学部で受験資格があります。実施要項は薬学部校友会事務局に請求して下さい。

会 合 予 告

第20回桜薬祭のご案内　母校を訪ねる日

第20回桜薬祭（薬学部学園祭）が来たる11月1日(土)・2日(日)の両日、薬学部校舎で開催されます。

薬学部校友会では、11月1日(土)を「校友の母校を訪ねる日」と定めて当日参加校友(工学部薬学科・理工学部薬学科・薬学部卒業生)に昼食券(500円)を進呈しております。当日は校友会提供の「桜薬クイズ」や学生会員の研究発表も行われております。校友の皆様お誘い合わせの上ご来校ください。多数のご参加をお待ちしております。

日本大学薬学部校友会（通称 桜薬会）千葉県支部通常総会開催のお知らせ

日本大学薬学部校友会千葉県支部総会を下記により開催します。当日は桜薬祭が開催されており、母校を訪ねる日でもあります。また、千葉県救急医療センター薬剤部の藤原良雄氏（16期）による講演も予定しておりますので、多数ご参加くださいますようお願いいたします。

日時：平成20年11月1日（土）12時30分～
内容：総会、講演会、懇親会
場所：日本大学薬学部

薬草教室開催のお知らせ

第20回桜薬祭において薬草教室が開催されます。本学卒業の千葉大学教授池上文雄先生（17期）の講演を予定しております。

皆様のご参加をお待ちしています。
日時：平成20年11月1日（土）13：00～
演題：千葉県の薬草－身近な薬用資源
場所：日本大学薬学部

製薬関連企業OB会の設立と懇親会のお知らせ（製薬企業に勤務する日大卒業生の皆様へ）

この度、多くの製薬関連企業でご活躍されている日大出身の皆様に情報交換の機会をご提供し日常の業務のお役に立てていただきたく下記懇親会を計画いたしました。

企業でご活躍されている卒業生の方々は、研究開発部門、製造部門、営業部門等様々な業務に携われておられますが、このような機会を大いに利用いただき皆様の研鑽の一助にしたいと考えておりますので、この趣旨にご賛同いただける方は是非ご参加をお願いいたします。

また、当日は懐かしい恩師の先生方をお招きし、楽しく旧交を温めたいと思います。

なお、現在、勤務先が判明している方々には、10月初旬に案内状を発送しますが、発送先等が不明の方が多くおられます。参加を希望される方は、下記連絡先にメール等でお知らせください。

記

日　時：平成20年11月28日(金) 18：30～21：00
場　所：アルカディア市ヶ谷（私学会館）
　　東京都千代田区九段北4－2－25
　　TEL：03-3261-9921
会　費：8,000円
幹　事：黒河内雅夫（杏林製薬）、藤原忠美（ファイザー）、
　　西野潤一（ノバルティスファーマ）
連絡先：〒101-8311
　　東京都千代田区神田駿河台2－5
　　杏林製薬株式会社
　　信頼性保証室　薬事部　黒河内　雅夫
　　TEL：03-3293-3425
　　e-mail: masao.kurogouchi@mb.kyorin-pharm.co.jp

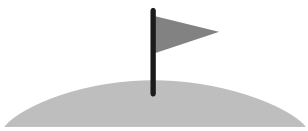
桜薬会ゴルフコンペ開催について

桜薬会OB、OGの中にはゴルフ好きの人も多いと思いますが、1期生、4期生が中心となり発足した桜薬会OB会ゴルフコンペを毎年、2回開催しております。

主に、八千代GC,泉CC, etcで開催しております。今までの参加者は1期生から16期生まで幅広く参加されています。会長は新村宗敏（1期生）幹事は中西弘（5期生）です。

卒業生の参加を歓迎します。

尚、5期生では、中西、樋口、鈴木（京子）、吉田（郁）が参加しております。詳しくは中西氏（047-341-1363）までご連絡下さい。　（5期　樋口哲夫）



会務報告

総務委員会　学内委員会
財務委員会　IT委員会
事業委員会　事　務　局

平成20年度校友会総会報告

平成20年度校友会通常総会は平成20年6月28日（土）午後1時30分から薬学部512教室で会員56名が参加し、名誉会長安西偕二郎薬学部長を迎えて開催した。

山内 盛会長の挨拶、安西名誉会長の挨拶の後、会則により山内会長を議長に選出した。議事に入る前に正会員および特別会員の物故者に対して黙祷を捧げた後、議事に入り、第1号議案（平成19年度庶務報告、事業報告、決算報告ならびに監査報告）について、審議し、可決承認された。第2号議案（平成20年度事業計画案ならびに予算案）および第3号議案役員承認については、原案とおり承認された。なお、本年度は薬学部校友会役員改選期であり、会長には引き続き山内盛氏（4期）が選出された。

引き続いて懇親会が多目的ホール（2号館・2階）で開催された。懇親会には、日本大学総長・理事長小嶋勝衛先生をはじめ薬学部長安西偕二郎先生、校友会本部庶務課長佐藤義典様、同僚学部校友会会長など14名ならびに母校教職員多数を迎えて開かれた。名誉会長安西先生のご挨拶、ご来賓の紹介、ご来賓を代表として総長・理事長小嶋勝衛先生のご挨拶、薬学部局長小林喜代司氏の音頭で乾杯し、開宴となった。定年で退職された恩師（木村由美子先生）に山内会長より感謝状および記念品が贈呈された。また、校友会の事業である薬学部校友会研究奨励金による研究者；古石誉之氏に対して研究奨励給付証書が山内会長から

授与された。さらに、本日ご出席のユニット（研究室）主宰者の紹介がなされた。恒例の福引も行われ、次年度の再会を楽しみに散会した。

日本大学薬学部校友会
平成19年度　第3回　運営委員会議事録

日　時：平成20年3月14日(金)　18：00～20：00
場　所：日本大学会館　204号室
出席者：山内　盛（会長、4期）、渡邊和子（副会長 兼 総務委員会委員長、9期）、小林郁夫（副会長 兼 財務委員会委員長、10期）、高橋繁治（副会長 兼 学内委員会委員長、13期）、内倉和雄(副会長 兼 IT委員会委員長、学内14期)、草間　貞（財務委員会副委員長、学内15期）、伴野和夫（事業委員会副委員長、学内19期）、本橋重康(副会長 兼 事務局委員長、学内21期)、杉森万千日兒(総務委員会副委員長、21期)、梅沢芳史（IT委員会副委員長、25期）、鳥山正晴（事務局副委員長、学内30期）、原田貞亮（常任幹事 兼 日本大学校友会監事、1期）
以上12名

【報告】

1．事業委員会（伴野事業委員会副委員長　代理本橋事務局委員長）
　1）平成16年度版会員名簿の追補－4発行について
　　平成19年度卒業生の会員名簿（350部）を発行し、学位記伝達式に配布するとの報告があった。
　2）日本赤十字社救急員養成講習会について
　　参加学生が少なく、春期開催は中止したとの報告があった。
　3）桜薬会会報48号発行・発送について
　　4月15日発行の予定であるとの報告があった。
2．学内委員会（高橋学内委員会委員長）
　なし

3．IT委員会（内倉IT委員会委員長）
1）HPのリニューアルについて
就職情報、会報、卒後教育講座などのレジメを掲載しているとの報告があった。
4．財務委員会（草間財務委員会副委員長）
1）平成19年度卒業生への会費納入説明会について
平成20年1月31日(木)に行ったとの報告があった。
5．事務局（本橋事務局委員長）
1）平成19年度薬学部校友会奨学生について
薬学部校友会奨学生選考委員会により、小畑新太郎（3年）、折井香澄（3年）さんの2名が推薦され、第10回教授会で審議の結果、決定し、12月20日に開催された奨学生証書授与式で山内会長より奨学金が授与されたとの報告があった。
2）平成20年度薬学部校友会奨励金研究者について
薬学部校友会研究奨励金研究者選考委員会により、薬剤学ユニット　古石誉之助手が候補者として教授会へ推薦され、第8回教授会において承認された。なお、平成20年度薬学部校友会総会・懇親会において授与式を行う予定となっているとの報告があった。
3）平成19年度総合講義試験問題集発行部数について
薬学部より依頼があり、発行部数は一任して貰うとの報告があった。
4）53期（平成19年度卒業生）幹事および常任幹事について
常任幹事：岡田　淳吾、幹事：鈴木　富仁、狩野裕子の3名が選任されたとの報告があった。
6．工科系校友会幹事会（渡邊副会長）
日時：平成20年2月13日（水）理工学部9号館935室
平成20年度工科系校友連絡会・支部長会は生産工学部が当番校で8月30日(土)に開催予定であるとの報告があった。
7．医療系同窓・校友連絡会（山内会長）
当番学部（薬学）として20年1月22日に連絡会を開催し、昨年9月22日本大学大講堂で開催した第6回学術講演会の報告をした。参加者は148名で薬学からの参加者は30名で例年より少なかったことが報告された。
8．本部校友会（山内会長）
1）校友会館建設委員会について
校友会館建設候補地として日本大学本部別館跡地が決まり、校友会館建設委員会（委員長：沼尻理工学部校友会会長）が設置され、山内が委員に選任されたことが報告された。
2）箱根駅伝振興特別委員会について
第84回箱根駅伝日大チームを応援する目的で本年も特別委員会が設置された。薬学からは山内、原田（1期）、前田（6期）が委員として参加したが、この委員会は校友各位からの寄付金で運営する委員会であり、薬学部校友会からは362,000円(57名)の寄付をいただいた。寄付者には全員に応援ガイドを、1万円以上の寄付者には携帯ストラップが送られたことが報告された。
9．日本大学学部校友会・同窓会連絡協議会（山内会長）
日時：1月30日(水)（社)東京銀行協会 銀行倶楽部
「大学は帰属意識を持つように強く言われるが共通の持ち物、シンボルがない。よって何らかの物を各学部校友会経費で作るべきではないか」とそのために携帯ストラップ(含デザイン)を作成してはと山内から提案をしたとの報告があった。

【審議】
1．平成19年度第2回運営委員会議事録（案）について（渡邊総務委員会委員長）
一部修正の後、原案通り承認された。
2．総務委員会（渡邊総務委員会委員長）
平成20年度総会・幹事会・運営委員会等の日程について下記の通り承認された。
第1回運営委員会
5月16日(金)18：00～　日本大学会館204号室
校友会入会記念講演会「薬学の世界」
5月17日(土)10：00～　薬学部651階段教室
幹事会
6月6日(金)18：00～　日本大学会館701号室
総会・懇親会
6月28日(土)13：30～　薬学部512教室、食堂
工科系校友会親睦ゴルフコンペ
8月29日(金)
工科系校友会連絡会・支部長会・懇親会
8月30日(土)10：30～　日本大学生産工学部
医療系学術講演会
9月27日(土)14：00～　日本大学会館　大講堂
母校を訪ねる日（桜薬祭）
11月1日(土) 9：00～　薬学部
第2回運営委員会
11月1日(土)11：00～　薬学部1号館第2会議室
第3回運営委員会
3月13日(金)8：00～　日本大学会館204号室
3．事業委員会（伴野事業委員会副委員長）
1）桜薬会会報49号発行について
10月発行予定であることが承認された。
2）日本赤十字社救急員養成講習会について
春期は参加者が少ないこともあり、今後は年1回（9月）開催することが承認された。
3）平成16年度版会員名簿の追補－5発行について
平成21年3月発行予定であることが承認された。
4．学内委員会（高橋学内委員会委員長）
1）平成20年度入学記念品の選定について
USBメモリーUFD―A512M2SV（名入れ含む）(2,240円／個、300個、計672,000円）に決定した。
2）第5回薬学部校友会入会記念講演会「薬学の世界」について

開催日時：平成20年5月17日（土）10：00～12：00
開催場所：651階段教室
講演者は、総務委員会と相談の上決定することおよび基本的には、従来通り企業勤務者・行政関係者・病院薬剤師の3名の方に依頼することが承認された。

3）薬学部スポーツ大会補助について
開催日時：平成20年5月24日（土）
例年通り、飲み物：参加者（学生、教職員）、文具券：参加学生のみへ配布することが承認された。

5．IT委員会（内倉IT委員会委員長）
1）HPのリニューアルについて
就職情報、桜薬会会報、卒後教育講座などのレジメを掲載していくことが承認された。

2）議事録の掲載について
運営委員会の議事録をHPに掲載することについては、継続審議とした。

6．財務委員会（小林財務委員会委員長）
1）平成20年度予算案作成依頼について
各委員会に予算案の作成依頼が承認された。

7．事務局（本橋事務局委員長）
1）役員改選について
平成20年度は役員改選期（任期は3年）なので、各期幹事の選出は4月16日（水）締め切りで総会に向けて準備していくことが承認された。なお、会長案については、次回運営委員会（5月16日）で決めることもあわせて承認された。

8．医療系同窓・校友連絡会(山内会長)
1）第7回日本大学医療系同窓・校友学術講演会の演者・演題・座長について
本年度当番幹事は医学部同窓会で、当番から表題事項を3月20日まで提出してほしいとの要請があった。演題については医歯薬獣共通話題を提供することが確認され、石井良和氏（26期薬剤学）に感染症での話題を提供願うことおよび折衝・座長は伴野副会長が担当することが承認された。また、今後のために講演候補者をリストアップすることが了承された。

9．その他
1）平成20年度薬学部校友会入会記念講演会「薬学の世界」の演者について（高橋学内委員会委員長）
5月17日（土）に開催される「薬学の世界」の演者候補者依頼があり、総務委員長と事務局で検討することが承認された。

2）OB・OG訪問について（本橋事務局委員長）
学部学生、院生からOB・OG訪問の希望があるので、校友会報に掲載して受入れていただける方を募集することが承認された。

3）携帯ストラップの作成について（山内会長）
薬学部カレッジカード還付金を使って携帯ストラップの作成を実現したいとの提案があった。還付金を次年度経費に繰り込み、その経費内で作成することが承認された。配付方法については校友会事業に参加した人に渡す等の意見が出たが、次回運営委員会で最終決定することになった。

平成20年度幹事会報告

平成20年度幹事会は6月6日（金）午後6時から日本大学会館701号室において、役員参加者42名で平成20年度日本大学薬学部校友会総会・懇親会の資料について審議を行った。

平成20年度入会記念講演会報告

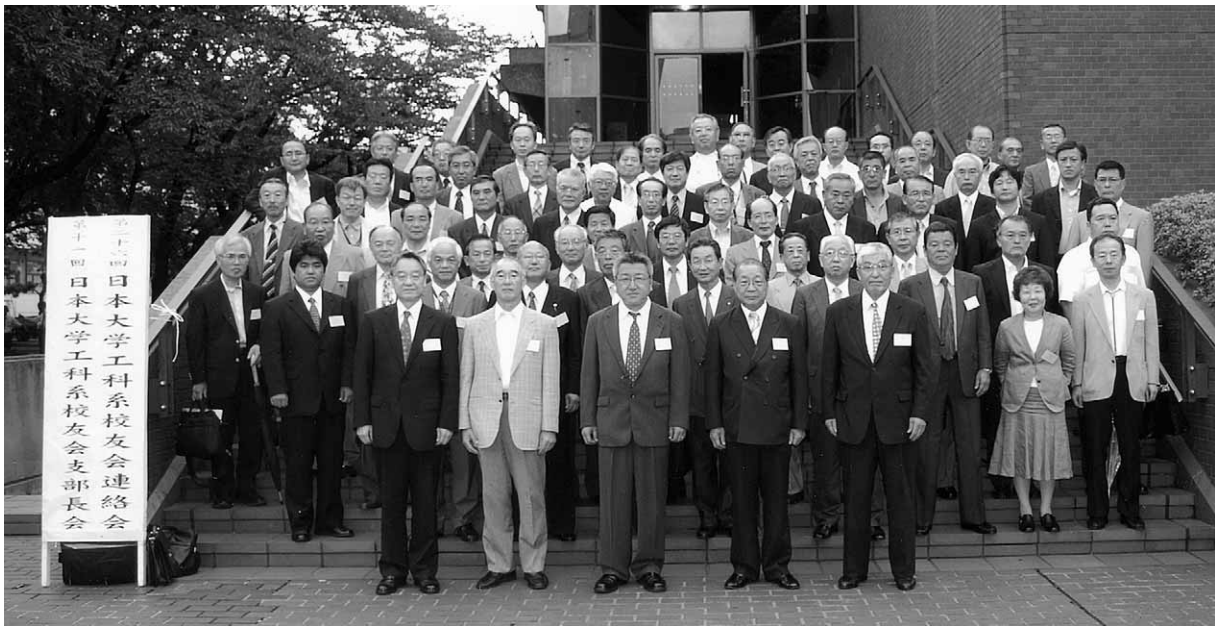
第5回入会記念講演会「薬学の世界」が下記の通り新入会員（1年生）247名のもとで開催され、さらに入会記念品として参加者にUSBフラッシュメモリーが配布された。

日時：平成20年5月17日(土) 10：00～12：00
場所：薬学部6号館階段教室
演題・演者：
1.「病院薬剤師の仕事」 岡部佳郎（31期）
(財)東京都保健医療公社 東部地域病院
2.「学生時代にできること」 原口善朗（30期）
ノバルティスファーマ(株)
3.「薬剤師の役割と仕事」 葛岡康弘（23期）
柏市保健所

平成20年度工科系校友会連絡会および支部長会報告

第26回日本大学工科系校友会連絡会および第11回日本大学工科系校友会支部長会が平成20年8月30日(土)に生産工学部校友会（当番校友会）で生産工学部津田沼キャンパスにて開催された。連絡会（出席者28名で薬学部7名；会長、副会長（5)、薬学部校友会常任幹事（1））では、各校友会の活動状況についての報告があり、話題として校友会総会に若手の参加キャンペン、校友子女入学試験（情宣不足）などについて意見交換した。

支部長会（出席者64名で、薬学部7名）では、4学部校友会の活動報告があった。続いて各支部会の活動報告があり、その中で各支部とも支部会総会への若年層の参加が減少している現状であるとの報告があった。しかし、総会時に講演会（日大出身者で著名人など）を開催する、参加者へのメリット（情報提供など)、総会の会費（年代により差を）などそれぞれに工夫をして参加者の増加に努めているとのことである。



平成20年度工科系校友会連絡会および支部長会

事務局より

物故者名簿：心より御冥福をお祈り申し上げます

（平成20年9月1日現在）

特別会員（五十音順）

石戸谷　勉	
石松　新太郎	
猪瀬　秀雄	
小澤　　光	H 15.7.27
木村　知時	
木村　雄四郎	
黒柳　惣十	
後藤　格次	
斎藤　太郎	
佐藤　孝俊	H 15.7.23
里見　政吉	H 12.12.7
高本　隆二	
立山　弥七	
塚原　英明	H 5.4.18
椿　　啓介	H 17.8.18
永松　國助	H 9.6.8
平山　　清	
益子　　安	
松尾　　仁	
村越　善衛	H 18.7.19
山本　純子	H 11.10.20
渡辺　俊男	H 20.8.

正会員（卒期順）

2期	山下　　登	H 20.3.10
3期	中澤（高野）悦子	H 19.9.
3期	松本　幸次郎	H 19.6.
6期	小穴　武男	H 19.11.8
8期	阿部　尹彦	H 18.2.
8期	小金　松雄	
9期	小野寺（奥間）美智子	H 20.1.23
10期	水野　　聚	H 15.9.28
13期	今井（寺西）俊子	H 20.7.24
17期	本間　光雄	H 20.5.14
25期	宍澤（織田）咲知	H 19.11.25
25期	滝川（菅原）喜久子	H 20.4.15
33期	宇津木　勝	H 20.

校友会事務局に、死亡日時、葬儀日時、会場、喪主をご連絡いただければ、会より弔電を打たせていただきます。

ホームページ求人・求職のIDについて

日本大学薬学部校友会ホームページの求人・求職のコーナーに入るためにはIDとパスワードが必要です。

IDは宛名の下にある正会員番号の下6桁（半角）、パスワードは氏名（全角カタカナ）になります。ID・パスワードは毎年10月の末に一括更新しております。本年3月に卒業された方は、10月までは学生時のID・正会員のIDどちらでも入れますが、それ以降は正会員のIDをお使いください。氏名の変更をお届けいただいた方は、10月までは旧氏名となります。

⚠ 警告（日本大学新聞から転載）

最近、原理研究会＝統一教会系とみられる団体が『**日大学生新聞**』と称する新聞を発行し、校友や父母に広告の依頼や年間2万円もの高額な購読料で案内の電話をしています。

日本大学新聞は85年の伝統を持つ大学機関で電話による購買、その他のお願いは一切しておりません。また、日本大学新聞の購読料は2年間で4,000円です。ご注意下さるようお願いいたします。

⚠ 注意（会員名簿の取扱いについて）

日本大学では「個人情報保護に関するガイドライン」を定めております。薬学部校友会もガイドラインに沿い個人情報の保護に万全を期すよう努めております。

平成16年度版会員名簿は配布先を薬学部校友に限定し、すべての冊子に番号を附し、配布台帳に記載して配布先を明確にしております。名簿資料は大学・校友会・ユニット及び卒業期から皆様への情報提供以外には使用いたしません。皆様もお手元の校友名簿の管理には十分なご配慮をお願いいたします。

薬学部校友会役員名簿

(2008. 4. 1～2011. 3. 31)

会　　長　山内　　盛(4期)
名誉会長　安西偕二郎(薬学部長)
副 会 長　渡邊　和子(9期)　　小林　郁夫(10期)
　　内倉　和雄(14期)　　岸田　邦雄(14期)
　　伊藤　幸夫(15期)　　本橋　重康(21期)
監　　事　小山　　隆(1期)　　齋藤　好廣(18期)
　　小川　　敦(24期)

卒業期・学内選出役員名簿　　◎印　常任幹事

第 1 期　◎原田　貞亮、大林　　温、分林　孝夫
第 2 期　◎石黒　文夫、内田　五郎、高木　茂夫
第 3 期　◎中村　　健、徳竹　伯夫、中村　勝義
第 4 期　◎笹野　英雄、大島　芳郎、島峯　望彦
第 5 期　◎中西　　弘、鯏　　俊夫、大日方綾子
第 6 期　◎前田　敏晴、高野　　怜、松島　章浩
第 7 期　◎藤原　充雄、小山　征治、田中　孝治
第 8 期　◎前田　圭一、青木　正忠、畑中　耕一
第 9 期　◎小久保光昭、長沼　邑子、◎渡邊　和子
第10期　◎小林　郁夫、木村由美子、高橋　捷泰
第11期　◎鈴木　鎮世、桑畑　善信、灰原　義夫
第12期　◎小清水敏昌、野澤　克己、原田　隆子
第13期　◎高橋　繁治、玉川　欽也、松田　信行
第14期　◎岸田　邦雄、牛込　陛阜、須賀　正道
第15期　◎伊藤　幸夫、黒河内雅夫、深瀬　善弘
第16期　◎藤原　良雄、伊藤　順子
第17期　◎高木　友直、深瀬　悦子、吉野美佐子
第18期　◎大河内一紀
第19期　◎坪川　博則、須藤　孝子、吉岡　晴美
第20期　◎内堀　　悟、菊池　紀子、濱中　敏雄
第21期　◎杉森万千日兒、石田　制利、吉田　善一
第22期　◎苅部　博哲、井澤　郁子、菅野　圭介
第23期　◎熊井　俊夫、柴田　恭子、野中　榮夫
第24期　◎
第25期　◎梅沢　芳史
第26期　◎木下　義文、梶原加恵子、小森谷友宏
第27期　◎吉川日出雄、飯塚　　進、山北　信広
第28期　◎高橋　省三、高塩　健一
第29期　◎渡辺　茂和、渡辺　　実
第30期　◎鈴木　恵裕、原口　善朗、林　　宏行
第31期　◎原　　英行、尾形　眞一、中澤　　豊
第32期　◎
第33期　◎笹本　　修、熊谷　　仁、関根　　均
第34期　◎坂本　治彦、石川　浩子、原　　浩祐
第35期　◎杉本　勝昭、石崎　智昭、坂井　義則
第36期　◎中嶋　順一、難波　昭雄、藤澤　秀樹
第37期　◎鈴木　重由、酒井　秀夫、渡邊　和裕
第38期　◎
第39期　◎
第40期　◎
第41期　◎轟　　耕司、高梨　正成、宮田　成康
第42期　◎須田　篤博、猪狩　富夫、堂埜　　仁
第43期　◎
第44期　◎山本　哲也、牛山　直樹、森田　佳貴
第45期　◎伊藤　護之、及川　直毅、森木誉嗣昭
第46期　◎麦島　　篤、磯部　　幸、佐藤　史行
第47期　◎岩田　佳之、安倍　祐治、大平　正隆
第48期　◎八巻　　亨、藤井　真里
第49期　◎石井　範正、山本　祐子
第50期　◎野村沙和子、伴野　絢子、宮崎　恵理
第51期　◎羽賀　健悟
第52期　◎矢作　忠弘、後藤　教嘉、中島　博史
第53期　◎岡田　淳吾、狩野　裕子、鈴木　富仁

学　　内　◎内倉　和雄、◎道祖土勝彦、◎中村　　均、
　　◎安川　　憲、◎小池　勝也、◎立川真理子、
　　◎本橋　重康、◎三宅　宗晴、◎石毛久美子、
　　◎日高　慎二、◎内山　武人、◎小山　由美、
　　◎小村健太郎、◎大橋　祥世、◎小菅　康弘

会則第8条第4項会長指名常任幹事

第 9 期　渡邊　和子、学内選出幹事　15名

空欄は未選出です。卒業期選出幹事は同期生への世話役も兼ねております。

自薦・他薦を問いませんので推薦をお願いいたします。

薬学部校友会委員会名簿　(卒期)

委員会	委員長	副委員長
総務委員会	渡　邊　和　子(9)	杉森　万千日兒(21)
財務委員会	小　林　郁　夫(10)	小　池　勝　也(20)
事業委員会	岸　田　邦　雄(14)	安　川　　憲(18)
学内委員会	伊　藤　幸　夫(15)	立　川　真理子(20)
ＩＴ委員会	内　倉　和　雄(14)	梅　沢　芳　史(25)
事　務　局	本　橋　重　康(21)	内　山　武　人(33)

日本大学及び関係諸団体委員名簿　(卒期)

日本大学校友会	副 会 長	山　内　　盛(4)
	監　　事	原　田　貞　亮(1)
	常任委員	渡　邊　和　子(9)
	常任委員	小　林　郁　夫(10)
	委　　員	内　倉　和　雄(14)
	委　　員	岸　田　邦　雄(14)
	委　　員	本　橋　重　康(21)
工科系校友会連絡会	幹　　事	渡　邊　和　子(9)
	幹　　事	小　林　郁　夫(10)
	幹　　事	本　橋　重　康(21)

平成19年度決算報告

18. 4. 1～19. 3. 31

○本部還付金

科　　目	還付額	振替先	差　異△
本部還付（正会員）	81,600		
年会費充当		68,000	
雑収入（寄付金扱）		13,600	0
本部還付（準会員）	8,162,000		
入会金充当（半額）		2,610,000	
年会費充当		2,330,000	
前納会費充当		3,222,000	0
合　　計	8,243,600	8,243,600	0

○収 入 の 部

科　　目	予　算	決　算	差　異△
入会金	2,600,000	2,610,000	10,000
年会費	8,280,000	7,970,000	△ 310,000
前納会費積立	(5,280,000)	(5,074,000)	
当年度納入	(3,000,000)	(2,896,000)	
利子	15,000	12,251	△ 2,749
雑収入	500,000	647,722	147,722
前年度繰越	823,098	823,098	0
合　　計	12,218,098	12,063,071	△ 155,027

○支 出 の 部

科　　目	予　算	決　算	差　異△
1 事業費合計	6,700,000	6,657,754	△ 42,246
1 会誌発行費	3,150,000	3,423,189	273,189
印刷費	(1,800,000)	(2,030,700)	(230,700)
編集費	(100,000)	(86,270)	(△ 13,730)
発送費	(1,250,000)	(1,306,219)	(56,219)
2 活動補助費	3,150,000	2,856,365	△ 293,635
卒後教育講座	(300,000)	(300,000)	(0)
支部等	(450,000)	(280,446)	(△169,554)
学生会員	(2,400,000)	(2,275,919)	(△124,081)
3 HP管理費	400,000	378,200	△ 21,800
2 会議費合計	1,300,000	1,079,584	△ 220,416
1 総会費	600,000	526,216	△ 73,784
2 委員会費	150,000	88,902	△ 61,098
3 印刷費	100,000	29,610	△ 70,390
4 発送費	450,000	434,856	△ 15,144
3 事務局費合計	2,650,000	2,373,754	△ 276,246
1 管理費	450,000	401,964	△ 48,036
2 人件費	1,600,000	1,445,785	△ 154,215
3 旅費交通費	450,000	375,420	△ 74,580
4 通信費	150,000	150,585	585
4 その他合計	1,430,000	1,405,366	△ 24,634
1 本部等分担金	930,000	931,000	1,000
2 慶弔費	500,000	474,366	△ 25,634
5 予備費	138,098	132,800	△ 5,298
6 次年度繰越金	0	413,813	413,813
合　　計	12,218,098	12,063,071	△ 155,027

平成20年度予算案

19. 4. 1～20. 3. 31

○本部還付金

科　　目	予　算	前年実績	差　異△
本部還付（正会員）	105,000	81,600	23,400
年会費充当	(70,000)	(68,000)	(2,000)
雑収入（寄付金扱）	(35,000)	(13,600)	(21,400)
本部還付（準会員）	8,260,000	8,162,000	98,000
入会金充当（半額）	(2,725,000)	(2,610,000)	(115,000)
年会費充当	(2,360,000)	(2,330,000)	(30,000)
前納会費充当	(3,175,000)	(3,222,000)	(△47,000)
合　　計	8,365,000	8,243,600	121,400

○収 入 の 部

科　　目	予　算	前年実績	差　異△
入会金	2,725,000	2,610,000	115,000
年会費	8,200,000	7,970,000	230,000
前納会費積立	(5,200,000)	(5,074,000)	(126,000)
当年度納入	(3,000,000)	(2,896,000)	(104,000)
利子	12,000	12,251	△ 251
雑収入	600,000	647,722	△ 47,722
前年度繰越	413,813	823,098	△ 409,285
合　　計	11,950,813	12,063,071	△ 112,258

○支 出 の 部

科　　目	予　算	前年実績	差　異△
1 事業費合計	7,250,000	6,657,754	592,246
1 会誌発行費	3,700,000	3,423,189	276,811
印刷費	(2,100,000)	(2,030,700)	(69,300)
編集費	(100,000)	(86,270)	(13,730)
発送費	(1,500,000)	(1,306,219)	(193,781)
2 活動補助費	3,150,000	2,856,365	293,635
卒後教育講座	(300,000)	(300,000)	(0)
支部等	(350,000)	(280,446)	(69,554)
学生会員	(2,500,000)	(2,275,919)	(224,081)
3 HP管理費	400,000	378,200	21,800
2 会議費合計	800,000	1,079,584	△ 279,584
1 総会費	600,000	526,216	73,784
2 委員会費	130,000	88,902	41,098
3 印刷費	40,000	29,610	10,390
4 発送費	30,000	434,856	△ 404,856
3 事務局費合計	2,400,000	2,373,754	26,246
1 管理費	450,000	401,964	48,036
2 人件費	1,500,000	1,445,785	54,215
3 旅費交通費	280,000	375,420	△ 95,420
4 通信費	170,000	150,585	19,415
4 その他合計	1,430,000	1,405,366	24,634
1 本部等分担金	930,000	931,000	△ 1,000
2 慶弔費	500,000	474,366	25,634
5 予備費	70,813	132,800	△ 61,987
6 次年度繰越金	0	413,813	△ 413,813
合　　計	11,950,813	12,063,071	△ 112,258

会費納入報告

財務委員会

会費を納入いただきました方々の名簿です。ご協力ありがとうございました。誤りがありましたらお知らせください。本部準会員（学生会員）会費納入者は人数のみのご報告とさせていただきます。（平成20年3月1日～8月31日）

会費納入者

2,000円納入者

56森本達也 57虎渓恭代 58岡本昌子, 斎藤友美, 佐藤フク子, 佐藤雅子, 山田愛子 59木村清, 守護哲二 60吉川登志江,豊田亮三 61岩瀬光江, 江花恭子, 辻厚子 63泉澤晴子, 芝紀代子, 鈴木郁子, 吉田紀子 64西川宣征, 廣瀬慶子, 布施孝三郎, 向井葵 65秋元敦信 66増田直代 67田中靖子 69岸田邦雄 70太田正昭, 吉山守 72山下和代 73加藤裕, 久保山昇 74松村昌子, 横溝始 76汐月吉子 77安部貞詔, 岡田秀己, 藤田智子 78横山亮一 79大塚正征, 田邉浩二, 三浦博子 81谷川清澄 82渡辺正実 86阿部幸生, 三宅智子 90矢野千香 97岡添進

以上　47名

4,000円納入者

58恩田正昭, 住吉京子 60尼崎玄之助, 斉藤文夫 77山口文恵 96川畑朋実

以上　6名

6,000円納入者

56滝戸澄子 57野田文子, 野田正道

以上　3名

10,000円納入者

56狐塚治子, 山口久美 57中村喜敬, 藤井篤範, 松村洋子 58清本和子 59伊藤其治, 遠藤節子, 妹尾昇 60今村典子, 及川裕香子, 小倉操子, 上甲時子, 永芳よし子, 待井啓子 61松澤

孝昌 62小西一雄, 須賀文代, 藤原充雄, 町田實, 松山歌子, 吉田昌信 63池内玲子, 石橋正子, 桐谷利子, 武井侑代, 樋渡惟訓, 宮本頼章 64漆原庸子, 鎌田邦栄, 栗原康子, 末吉祥子, 西上浩平 65浦野博, 佐藤良夫, 高橋捷泰, 平井清作, 牧村瑞惠, 三井田洋子, 森田洋子, 米川幸子 67高齊紀子, 原田隆子 70上村敏子, 牧村紀子 71家串稔, 石田清一, 福田稔, 山内ヒロ子 73金岡英治, 嶋村美知子, 山本美枝子 76橋本牧子 79池田邦代, 上濱洋子, 小松克也 80麻生容子, 川口英美, 関和優子, 田中香代子, 中村正敏, 丸山恵子, 御園高弘 81小松原正俊, 関根三代子, 知久真巳, 富永博之, 本多玲子, 横山伯子 82大川博,佐藤勇, 藤井立子 84宗村素子, 鈴木孝子, 山中美佐子, 吉田昌利 85田﨑恵, 羽二生尚身 86伊藤有一, 岡部佳郎, 田口裕之, 原英行 87松本典代, 福島栄, 小林真由美 88伊達智津, 諏訪勝彦 89小荷田史子, 吉澤昭世 90城戸口和成 91香取和夫, 難波昭雄 92菊池弘一, 寺本裕 93津晃子 94倉持充弘 96轟耕司 97小林文 98長沼玲子, 藤崎千鶴 08麻布百合子, 吾妻隼斗, 厚見恵, 伊藤友紀, 井上倫代, 今井由恵, 岩野由貴, 上村苑子, 内久根暖佳, 梅原美紀, 榎亜季, 鷲塚弘奈, 大澤亮平, 小笠原隼一, 岡田淳吾, 奥田早紀子, 甲斐岳史, 加藤涼太,金井理恵, 神谷あゆみ, 川口貴美乃, 川島慶子, 菊島僚, 栗田充, 栗原成典, 小林幸枝, 逆井麻衣, 櫻井仁美, 指田ミカ, 佐藤明子, 佐藤暢祐, 真田佳美, 佐野真由美, 三瓶由香, 志田良美, 篠原喜英, 鈴木香織, 鈴木展宏, 鈴木祐介, 須藤章子, 高崎伸一郎, 高梨友佑, 髙萩紀子, 高橋慶, 髙橋惇一, 田中融, 千葉聖, 寺崎祐美子, 冨樫美穂, 徳宿桂子, 友政真弓, 永井萌子, 中込未来, 中島隆良, 中嶋章人, 中島悠子, 中田理奈, 中野英明, 西川泰史, 西崎景子, 西村有樹, 能勢裕久, 野原良介, 信田愛, 萩原裕未, 橋本侑子, 八田加奈子, 初野美智, 濱野由宜子, 林彰子, 樋口直美, 久重侑子, 平沢孝幸, 平田明日香, 平山友香梨, 深澤美南, 福田恵, 藤田裕子, 藤田由実, 藤村祐樹, 星野剛史, 細川麻衣, 堀川耕平, 松田萌香, 三上泰輝, 箕輪仁美, 三原春佳, 宮川元範, 村上由季, 村田真紀, 森田真澄, 森山雄太, 柳瀬舞, 八巻月子, 山岸良多, 山口諒, 山崎由美子, 山本香織, 吉川翔, 吉田后里, 吉田泰史, 吉森好弘, 渡邊謙, 渡辺百合香　以上　204名

12,000円納入者

59富塚隆 65浅野文子 93岡本政徳　以上　3名

15,000円納入者

08小野紳矢, 加藤雅子, 髙木彰子, 山本典子　以上　4名

20,000円納入者

61小田八保子, 高橋依子 63伊藤進 65岡田典子 67鈴木長生 69西村友則 75横山宗彦 77塚本利夫 80宇留田久美子 84門井功 86中嶋今日子, 横尾朋枝 88伊藤公則 91永野義武 96黒田好美, 田畑恵市 97平澤美和子 98柏木健司　以上　18名

30,000円納入者

70坂尾孝　以上　1名

36,000円納入者

94鈴木敏之　以上　1名

60,000円納入者

84川田博久　以上　1名

84,000円納入者

70小林郁夫　以上　1名

平成19年度本部正会員会費納入者
（薬学部校友会へ会費還付があった者）

56原田貞亮 57一ノ瀬衛, 森田允子 59山内盛 60斉藤文夫 61前田敏晴 64小松康宏, 渡邊和子 68高橋繁治 69坂田秀臣 70宇野澤まり子 72宮本俊男 74伴野和夫 75土井正道, 鎌田みづ江 76石田制利, 鈴木孝, 本橋重康 78阪本智子, 高野英夫 79川島仁子, 齊藤順子 80梅沢芳史 81三浦啓一 82長谷川孝明 84渡辺茂和 94土屋晃一 98横山寛　**特別会員** 手塚雅勝　以上　29名

平成20年度本部準会員会費納入者人数
（薬学部校友会へ会費還付があった者）

学部1年	272名	博士1年	6名	
学部2年	256名	博士2年	9名	
学部3年	237名	博士3年	10名	
学部4年	297名	修士1年	43名	
		修士2年	41名	以上　1,171名

奨学・研究奨励基金

2,000円寄付者

60 斉藤文夫　以上　1名

会費納入のお願い

会員名簿資料に会費納入状況が印刷されています。
（会員番号に☆印のある方は未納です。）

未納の方は同封振込用紙で会費納入をお願いいたします。
会費は年額2,000円です。
事務簡素化のため5年分10,000円又は10年分20,000円を一括納入して頂ければ幸甚です。

発行日　平成20年10月15日
編集人　日本大学薬学部校友会事業委員会
発行人　日本大学薬学部校友会　山内　盛
印刷所　協友印刷㈱
TEL 03－3267－8056

発行所　千葉県船橋市習志野台7－7－1
日本大学薬学部内（〒274-8555）
電話・FAX 047－465－1478（直通）
e-mail: alumni@pha.nihon-u.ac.jp
振替口座番号　00140－0－53798
振替口座名　日本大学薬学部校友会